

科目名	SCH100: 人間学 I			担当教員	丹木 博一, 小林 宏子, 島村 絵里子, 上田 圭委子
開講期	春	分類	必修		
単 位	2	標準受講年次	1年		
DP 及び 学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要			学修成果獲得の観点
	1, 2	キリスト教ヒューマニズムの精神に立脚し、他者とのかかわりの中で自己形成を行う力を身につけます。学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。			1-①, 2-①
担当教員 の連絡情 報	担当教員	研究室	オフィスアワー	連絡先	
	丹木 博一	4214	P.19を参照のこと		
	小林 宏子	4204	P.19を参照のこと		
	島村 絵里子	4号館2階 講師控室	授業前後		
上田 圭委子	4号館2階 講師控室	授業前後			
キーワード	人間の尊厳、かかわり、コミュニケーション、生きる意味				
授業の 概 要	建学の精神であるキリスト教ヒューマニズムに基づき、「人間とは何か」という問いについて、「かかわり」という視点から学際的な考察を行う。テキスト講読を通して、「他者のために、他者とともに」生きることを模索し、各人固有の存在意義を実現するための道しるべを探究する。				
達成目標 (授業の目的)	「人間とは何か」という問いと向き合い、自分自身、家族、他者、社会、自然、神との「かかわり」について真剣に考察することによって、「人格的主体」として生きる人間の「尊厳」の意味を理解できるようになる。				
到達目標 (学修成果)	① 人間学のキーワードの意味内容を正確に理解し、それらの語句を適切に用いることができる。 ② 人間の間生まれ、人間によって生まれ、人間とのかかわりを求めながら生きる自己のあり方を振り返り、「他者と共に生きること」を自分自身の課題として受けとめ、その理解内容を表現できる。 ③ 社会や自然、そして神とのかかわりの諸相に関心を寄せ、人間が「よく生きるために必要なこと」は何であるかを問い、それを自分自身の課題として表現できる。 ④ 生老病死の苦しみがあるにもかかわらず、「人はなぜ生きるのか」という問いについて自分の考えを表現できる。				
評価方法	①毎回の事前課題の提出 (22%)、②授業毎のリアクションペーパー (28%)、③中間課題(1,000~1,200字の小レポート) (20%)、④定期試験(選択式問題と小論文) (30%)				
評価基準	① 毎回の事前課題の提出：課題となる準備学修を行い、成果物を毎回提出する。2%×11回。以下の「準備学修」欄に記載の「要約」の課題を授業前日までに Moodle にて提出。 ② リアクションペーパー：授業内容を踏まえ、自分の意見や疑問を分かりやすく記述できること。2%×14回 ③ 中間課題：1,000~1,200字の小レポート。20% 「他者との共生」について人間学の基本用語を理解した上で、自分の言葉で問題を提起し、その問いについて考察した内容を分かりやすく表現できること。Moodle にて提出。 ④ 定期試験：定期試験期間中に実施する。内容は以下の通り。いずれも持ち込み不可。30% (i) 選択式の問題を課す。教科書を正しく理解していること。10% (ii) 700~800字の小論文を作成してもらう。人間に「生老病死」の苦しみがあることを踏まえながら、「どうしたら希望をもって生きられるか」について、事前に最低一冊の参考文献を読み、その書誌データを明記し、内容のポイントを簡潔に要約した上で、自分の考えを分かりやすく展開できること。20%				
準備学修 の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。				

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	人間学Ⅰの概要・目的・進め方・評価法 キリスト教的人間観の特徴・「愛」	講義・グループ分け リアクションペーパー	事前に教科書①pp.1～27を通読しておく。
2	<b>テーマ1</b> <b>いのちを支えるものとのかかわり</b> ① 私たちのいのちは何によって支えられているか?	講義・視聴覚教材 グループディスカッション リアクションペーパー	教科書①pp.29～44を通読し、人間の命を尊重すべき理由に関する筆者の意見を400字程度で要約する。
3	<b>テーマ1</b> ② 生きるために必要なことを満たすために私たちは何をなすべきか?	講義・視聴覚教材 グループディスカッション リアクションペーパー	教科書①pp.45～50を通読し、マズローの理論を400字程度で要約する。
4	<b>テーマ2</b> <b>成長発達を促すものとのかかわり</b> ① 成長の過程にはどのようなかかわりがあるだろうか?	講義・視聴覚教材 グループディスカッション リアクションペーパー	教科書①pp.51～66を通読し、青春期の発達課題に関する筆者の意見を400字程度で要約する。
5	<b>テーマ2</b> ② かかわりをとおして自分はどのような成長を遂げたのだろうか?	講義・視聴覚教材 グループディスカッション リアクションペーパー	教科書①pp.67～71を通読し、アドラーの理論を400字程度で要約する。
6	<b>テーマ3</b> <b>他者へのかかわりと自己理解の形成</b> ① 私たちのアイデンティティはどのように形成されるのだろうか?	講義・視聴覚教材 グループディスカッション リアクションペーパー	教科書①pp.73～84を通読し、ジェンダーアイデンティティに関する筆者の意見を400字程度で要約する。
7	<b>テーマ3</b> ② 差別にどう向き合えばよいのだろうか?	講義・視聴覚教材 グループディスカッション リアクションペーパー	教科書①pp.85～96を通読し、差別撤廃に関する議論を400字程度で要約する。
8	<b>テーマ4</b> <b>他者へのかかわりにおける自由と責任</b> ① 自由にはどのような種類があるか?	講義・視聴覚教材 グループディスカッション リアクションペーパー	教科書①pp.97～113を通読しておく。 中間レポート提出。
9	<b>テーマ4</b> ② 自由と責任はいかなる関係にあるか?	講義・視聴覚教材 グループディスカッション リアクションペーパー	教科書①pp.102～104に基づき、ギョメの自由について400字程度で要約する。
10	<b>テーマ4</b> ③ 人間は環境に対していかなる責任を持つのか?	講義・視聴覚教材 グループディスカッション リアクションペーパー	教科書①pp.114～117を通読し、環境に対する責任について400字程度で要約。
11	<b>テーマ5 人生の苦しみの意味と希望</b> ① 人間は、いかなる苦しみに対し、どのように向き合っているか?	講義・視聴覚教材 グループディスカッション リアクションペーパー	教科書①pp.119～131を通読し、死に対する態度について400字程度で要約する。
12	<b>テーマ5</b> ② 人生に苦しみがあることは何を意味するのだろうか?	講義・視聴覚教材 グループディスカッション リアクションペーパー	教科書①pp.132～138を通読し、苦しみの経験の意味を400字程度で要約する。
13	<b>テーマ5</b> ③ 希望を持って生きていく可能性はどこに求められるだろうか?	講義・視聴覚教材 グループディスカッション リアクションペーパー	期末試験の準備
定期試験を実施する Final Exam will be held			
14	総まとめ ※期末試験に対するコメント	講義 グループディスカッション リアクションペーパー	本授業で最も重要だと思った点を400字程度で要約。
<b>テキスト</b>	上智大学短期大学部編『かかわりの人間学』(事前購入のこと)		
<b>参考書</b>	『新約聖書』(授業初回時に無料配布) ヴィクトール・フランクル(池田香代子訳)『夜と霧』(みすず書房) エーリッヒ・フロム(鈴木晶訳)『愛するということ』(紀伊國屋書店) キューブラー・ロス(鈴木晶訳)『死ぬ瞬間』(中公文庫)		
<b>その他 特記事項</b>	14回の授業に加え、上智学院理事長による人間学合同授業が行われるので、必ず出席すること。		

科目名	SCH101: 人間学 II					担当教員	丹木 博一	
開講期	秋	開講時限	水 1 限	研究室	4214	オフィスアワー	P.19 を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2 年	連絡先		
DP 及び学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要					学修成果獲得の観点	
	1, 2	キリスト教ヒューマンイズムの精神に立脚し、他者とのかかわりの中で自己形成を行う力を身につけます。学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					1-①, 2-①	
キーワード	人間のいのちの意味、謙遜、ゆるし、愛、希望							
授業の概要	私たちがこの世に生きる意味は何であるかを、キリスト教的人間観に照らして考察する。イエス・キリストの生き様を振り返り、私たちの人生にはどのような可能性と課題が与えられているかを模索する。							
達成目標 (授業の目的)	キリスト教的人間観の基本を理解した上で、人生の意味について問いを提起し、自分自身の生き方の模範を探し求めながら、問いを追求していくことができる。							
到達目標 (学修成果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キリスト教的人間観の基本を理解する。</li> <li>・イエス・キリストの生涯とその意味を理解する。</li> <li>・宗教と文化の関係を自分自身の問題として捉え直す。</li> </ul>							
評価方法	①事前課題の提出 (26%)、②授業毎のリアクションペーパー (14%)、③中間課題 (1,200 字以上の小レポート) (25%)、④期末課題 (2,000 字以上のレポート) (35%)							
評価基準	<p>① 事前課題の提出：課題となる準備学修を行い、成果物を提出する。</p> <p>② リアクションペーパー：授業内容を踏まえ、自分の意見や疑問を分かりやすく記述できる。</p> <p>③ 中間課題：教科書の前半 (第 5 章まで) を踏まえ、宗教の意味に関する作者の意見を要約した上で、それに対する自分の意見をわかりやすく展開する。</p> <p>④ 期末課題：教科書の後半 (第 6 章以降) を踏まえ、自分にとって切実な人生への問いを提起した上で、キリスト教がその問いにいかなる答えを与えてくれるかについての作者の意見を要約し、それに対する自分の意見をわかりやすく展開する。</p>							
準備学修の時間	本科目の一回 (100 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 190 分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	導入：キリスト教と日本文化	講義、ディスカッション、リアクションペーパー	教科書 pp.13-18 を読んでおく。
2	宗教とは何か	講義、ディスカッション、リアクションペーパー	教科書 pp.19-32 をていねいに読み、要約を提出する。
3	「無」としての神	講義、ディスカッション、リアクションペーパー	教科書 pp.33-46 をていねいに読み、要約を提出する。
4	絶えざる創造	講義、ディスカッション、リアクションペーパー	教科書 pp.47-61 をていねいに読み、要約を提出する。
5	三位一体論とイエスの神アッパ	講義、ディスカッション、リアクションペーパー	教科書 pp.62-72 をていねいに読み、要約を提出する。
6	日本におけるイエスの顔 (1) 福音書のたとえ話	講義、ディスカッション、リアクションペーパー	教科書 pp.73-82 をていねいに読み、要約を提出する。
7	日本におけるイエスの顔 (2) 遠藤周作の『沈黙』	講義、ディスカッション、リアクションペーパー	教科書 pp.82-92 をていねいに読み、要約を提出する。
8	キリスト教と文化	講義、ディスカッション、リアクションペーパー	教科書 pp.93-102 をていねいに読み、要約を提出する。

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
9	救いの出来事としての復活	講義、ディスカッション、リアクションペーパー	中間レポート提出。 教科書 pp.103-119 をていねいに読み、要約を提出する。
10	日本文化の底を流れるもの(1) 絶対無の思想	講義、ディスカッション、リアクションペーパー	教科書 pp.120-140 をていねいに読み、要約を提出する。
11	日本文化の底を流れるもの(2) キリストのからだ	講義、ディスカッション、リアクションペーパー	教科書 pp.141-150 をていねいに読み、要約を提出する。
12	信仰とは何か	講義、ディスカッション、リアクションペーパー	教科書 pp.151-160 をていねいに読み、要約を提出する。
13	神・イエスのアガペー(悲愛)について	講義、ディスカッション、リアクションペーパー	教科書 pp.161-168 をていねいに読み、要約を提出する。
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	祈り	講義、ディスカッション、リアクションペーパー	教科書 pp.169-184 をていねいに読み、要約を提出する。

テキスト	井上洋治『井上洋治著作選集 10 日本人のためのキリスト教入門』(日本キリスト教団出版局)
参考書	『新約聖書』
その他 特記事項	分からないことがあれば、遠慮なく質問して欲しい。

科目名	SCH101: 人間学 II (S)				担当教員	アルン・デソーザ		
開講期	春/秋	開講時限	月 3 限	研究室	4号館 2階 講師控室	オフィスアワー	P.19 を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP 及び 学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要					学修成果獲得の観点	
	1, 2, 3	キリスト教ヒューマニズムの精神に立脚し、他者とのかかわりの中で自己形成を行う力を身につけます。学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。自己発信力に重点を置いた英語力を身につけ、英語を実践的かつ学術的に運用できます。					1-①, 2-①, 3-④	
キーワード	Christianity, Society and God, <i>Laudato Si'</i> , common home-earth, ecology							
授業の概要	This course introduces students to the three dimensions of our existence in this world, namely, my own self, my relationship with my neighbor in society, and the transcendental aspect which can be called God. By knowing oneself, we come to know our neighbors and society, which includes our relationship with living beings and nature. After knowing ourselves and society, eventually we may come to the realization that there is something beyond human comprehension which we may call transcendental or God. Christianity, like many other faiths in the world, is a way of life that helps focus on these three aspects. Through the readings focused on the Encyclical, <i>Laudato Si' and the Bible</i> , this course primarily stresses the need to become aware of three dimensions, namely of ourselves, of our society and of the transcendental. The course also deals with some fundamental questions related to one's faith such as why good people suffer or why suffering exists in the world, etc.							
達成目標 (授業の目的)	A) This course focuses on the three dimensions of our existence in this world, namely, my own self, my relationship with my neighbor in society, and the transcendental aspect which can be called God. By knowing oneself, we come to know our neighbors and society, which includes our relationship with living beings and nature. After knowing ourselves and society, eventually we may come to the realization that there is something beyond human comprehension which we may call transcendental or God. B) Students are introduced to academic readings that lead to a deeper understanding of our relationship with our common home and how we need to care for mother earth as explained in <i>Laudato Si'</i> . This journey will help us explore the Christian way of life, and inspire us to discover spiritual richness in today's bewildering world.							
到達目標 (学修成果)	At the end of the course, students will have attained an understanding of one's self, our relationship with our society, and finally how that relationship leads one to the transcendental or God. By reading extensively the encyclical <i>Laudato Si'</i> , we hope to evolve a comprehensive framework where we as human beings are united by concern for our planet and every living thing that dwells on it, especially the poorest and most vulnerable.							
評価方法	Team participation / presentations (30%), Reaction Papers (20%), Reflection Paper (20%), Semester Assignment (30%)							
評価基準	Team participation / presentations: each student's participation contributes to building team learning. Reaction Papers: students express their understanding and analysis on topics discussed in the class. Reflection Paper: students write analytically and systematically the contents discussed in the workshop. Semester Assignment: students theoretically and academically write a paper on a particular theme.							
準備学修 の時間	For each 100-minute class session of this course, an average of 190 minutes is needed for out-of-class study (assignments, review, etc.).							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	Introduction: Me, society and God	Lecture, discussion	Course Orientations Reaction paper 1
2	Who am I? My Identity	Lecture, discussion	Philosophical texts (1)
3	Who is my neighbor?	Lecture, discussion	<i>Laudato Si'</i> Chapter 1

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
4	<i>Laudato Si'</i> Chapter 1: What is Happening to Our common home?	Lecture, discussion, Team study	<i>Laudato Si'</i> Chapter 2 Reaction paper 2
5	<i>Laudato Si'</i> Chapter 2: The Gospel of Creation	Lecture, discussion, Team Presentation	<i>Laudato Si'</i> Chapter 3 Theological Texts (1)
6	<i>Laudato Si'</i> Chapter 3: The Human roots of the Ecological crisis	Lecture, discussion, Team Presentation	<i>Laudato Si'</i> Chapter 4 Reaction paper 3
7	<i>Laudato Si'</i> Chapter 4: Integral Ecology	Lecture, discussion, Team Presentation	Preparation for workshop. Reflection paper
8	Workshop: My Role in the Society	Lecture, discussion, Team study	<i>Laudato Si'</i> Chapter 5
9	<i>Laudato Si'</i> Chapter 5: Line of Approach and Action	Lecture, discussion, Team Presentation	<i>Laudato Si'</i> Chapter 6 Reaction paper 4
10	<i>Laudato Si'</i> Chapter 6: Ecological Education and Spirituality	Lecture, discussion, Team Presentation	Philosophical Texts (2)
11	Who is God? For me?	Lecture, discussion, Team study	“Where the Hell Is God?” (1) Theological Texts (2)
12	“Where the Hell Is God?” (Part 1: Complex Questions)	Lecture, discussion	“Where the Hell Is God?” (2) Reaction paper 5
13	“Where the Hell Is God?” (Part 2: Possible Answers)	Lecture, discussion, Team study	Preparing to summarize; course review
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	Concluding remarks, discussions	Lecture, discussion, Team study	course review; Assignments

テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Pope Francis (2016). Encyclical <i>Laudato Si'</i>: On Care for Our Common Home. Download from <a href="http://www.vatican.va/content/francesco/en/encyclicals/documents/papa-francesco_20150524_enciclica-laudato-si.html">http://www.vatican.va/content/francesco/en/encyclicals/documents/papa-francesco_20150524_enciclica-laudato-si.html</a></li> <li>• Richard Leonard SJ (2011). <i>Where the Hell Is God?</i> (Paulist Press).</li> <li>• Selected material/readings/texts related to topics will be made available.</li> </ul>
履修条件、前提科目	TOEIC score: 400 or above

科目名	HST201: 歴史学 A				担当教員	森下 園		
開講期	春	開講時限	火 4 限	研究室	4202	オフィスアワー	P.19 を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2 年	連絡先		
DP 及び学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要					学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					2-①	
キーワード	歴史学の歴史、近代歴史学の成立、歴史理論							
授業の概要	学問としての「歴史学」が近代にどのように成立したのか、「歴史学」は西欧の哲学や思想とどのような関係にある学問なのかを学ぶ。特に「唯一絶対の歴史」にひそむ西欧中心主義と男性中心の歴史観の問題および歴史を記述する権力の問題について考えていく。「世界史」の講義ではないので、注意すること。							
達成目標 (授業の目的)	<p>受講生が</p> <p>①歴史学とはどのような学問であり、どのように成立したのかを理解するために予習し、積極的に質問・発言できる。</p> <p>②歴史認識をめぐる議論や背景となる思想との関係について、講義内容をまとめ、口頭で発表できる。</p> <p>③専門用語・学問的な概念を用いて講義の要点を自分なりの言葉で記述できる。</p>							
到達目標 (学修成果)	<p>①次回授業プリントや参考資料を読み、事典・参考書で調べ、不明な点の質問や意見表明を授業でできるようになる。</p> <p>②講義内容を自分の言葉でまとめ、次回講義の冒頭で発表することで、各回のポイントを口頭で説明できるようになる。</p> <p>③専門用語・学問的な概念を用いて、講義の要点をレポートにまとめることができるようになる。</p>							
評価方法	<p>①授業内での質問・発言 (初回・最終回を除く) : 3%×12 回=36%</p> <p>②授業冒頭での口頭発表 (5 分) : 20% (回数は受講人数によるが 1~2 回を予定)</p> <p>③Moodle 提出のレポート (約 2000 字) : 22%×2 回=44%</p>							
評価基準	<p>①授業内での質問・発言 : 予習の上で質問をしているか、積極的に意見を述べているか</p> <p>②授業冒頭での口頭発表 : 授業内容を理解しているか、要点を押さえているか</p> <p>③レポート : 提出期限と書式を守っているか、講義内容を理解し、要点専門用語などを正しく用いてまとめてあるか、必要に応じて参考資料を用いて調べてあるか</p>							
準備学修の時間	本科目の一回 (100 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 190 分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	歴史学の諸問題、研究倫理について、まとめ発表のわりあて	講義、質疑応答	Moodle 登録、 2 回授業プリントの予習
2	歴史学の歴史 (1) ヨーロッパの歴史記述	講義、質疑応答	2 回授業内容のまとめ 3 回授業プリントの予習
3	歴史学の歴史 (2) 中国と日本の史書	前回のまとめ発表、講義、質疑応答	3 回授業内容のまとめ 4 回授業プリントの予習
4	歴史学の歴史 (3) ランケ史学 — 近代歴史学の登場	前回のまとめ発表、講義、質疑応答	4 回授業内容のまとめ 5 回授業プリントの予習
5	歴史学の歴史 (4) アナール派 — 民衆の歴史をどう記述するか	前回のまとめ発表、講義、質疑応答	5 回授業内容のまとめ 6 回授業プリントの予習
6	歴史学の歴史 (5) 歴史学の作法 — 史料批判と先行研究の用い方、レポートについての説明	前回のまとめ発表、講義、質疑応答	6 回授業内容のまとめ 7 回授業プリントの予習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
7	研究紹介 マルク・ブロック『王の奇跡』とナタリー・Z・デーヴィス『帰ってきたマルタン・ゲール』	前回のまとめ発表、講義、質疑応答	8回授業プリントの予習 レポート①の準備
8	理論(1) 西欧哲学の世界観	前回のまとめ発表、講義、質疑応答	9回授業プリントの予習 レポート①の準備
9	理論(2) 構造主義とポスト構造主義―M.フーコーの研究、レポート①提出	講義、質疑応答	9回授業内容のまとめ 10回授業プリントの予習
10	理論(3) 言語論的転回が歴史学につけつけたもの	前回のまとめ発表、講義、質疑応答	10回授業内容のまとめ 11回授業プリントの予習
11	理論(4) 文学とポストコロニアリズム―記述する権力は誰にあるのか、レポート①の講評	前回のまとめ発表、講義、質疑応答、レポートの講評	11回授業内容のまとめ 12回授業プリントの予習
12	理論(5) 歴史修正主義と社会構築主義―「私たちの歴史」はどうあるべきなのか	前回のまとめ発表、講義、質疑応答	12回授業内容のまとめ 13回授業プリントの予習
13	理論(6) ジェンダーと歴史学―歴史記述者のジェンダーギャップ	前回のまとめ発表、講義、質疑応答	レポート②準備
定期試験を実施しない Final Exam will not be held		* 定期試験期間にレポート②提出	
14	歴史学の諸問題のまとめ、レポート②の講評	講義、質疑応答、レポートの講評、意見交換	これまでの復習

テキスト	なし。授業内容に関するプリントを Moodle 授業掲示板で配付するので、各自が授業前に印刷して持ってくること。
参考書	J. H. アーノルド『1冊でわかる歴史学』(岩波書店)



科目名	HST202: 歴史学 B					担当教員	森下 園	
開講期	春	開講時限	金 4 限	研究室	4202	オフィスアワー	P.19 を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2 年	連絡先		
DP 及び学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要					学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					2-①	
キーワード	歴史学、史料論、メディアと歴史、国際歴史認識問題、歴史教育							
授業の概要	学問としての「歴史学」が近代にどのように成立したのか、「歴史学」はどんな史料をどのように用いて研究されるのか、歴史認識をめぐりどんな問題がおきているのか、歴史教育はどうあるべきかなどについて学ぶ。特に近代国家のための「物語」として創出された「他者を排除する歴史」の問題について考えていく。「世界史」の講義ではないので、注意すること。							
達成目標 (授業の目的)	<p>受講生が</p> <p>①歴史学とはどのような学問であるのかを理解するために予習し、積極的に質問・発言できる。</p> <p>②史料を読み込むために何が必要なか理解し、史料の解釈を試みることができる。</p> <p>③専門用語・学問的な概念を用いてポイントを自分なりの言葉で記述できる。</p>							
到達目標 (学修成果)	<p>①次回授業プリントや参考資料を読み、事典・参考書で調べ、不明な点の質問や意見表明を授業でできるようになる。</p> <p>②近世日本または近世英国の手書き史料 (トランスクリプト付き) を選択し、時代背景や史料の性質を調べ、自分なりに解釈を試みることができるようになる。</p> <p>③専門用語・学問的な概念を用いて、ポイントをレポートにまとめることができるようになる。</p>							
評価方法	<p>①授業内での質問・発言 (初回・最終回を除く) : 4%×12 回=48%</p> <p>②史料についての発表 (漢文・英語から選択して行う) : 20%</p> <p>③Moodle 提出のレポート (メディアと歴史教育について、約 2000 字) : 32%</p>							
評価基準	<p>①授業内での質問・発言 : 予習の上で質問をしているか、積極的に意見を述べているか</p> <p>②史料についての発表 : 割り当てられた史料の性質や時代背景を調べ、何が書かれているのか説明したうえで、この史料から何がわかるかを説明できているか。史料と活字にされたトランスクリプトをもとに自分で調べる力をみるものである。</p> <p>③レポート : 提出期限と書式を守っているか、理解した内容を自分の言葉できちんとまとめてあるか、必要に応じて参考資料を用いて調べてあるか</p>							
準備学修の時間	本科目の一回 (100 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 190 分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	歴史学とはどんな学問か、研究倫理について	講義、質疑応答	Moodle 登録、 2 回授業プリントの予習
2	史料を読むために (1) 古書体学 史料発表の割り当て	講義、質疑応答	3 回授業プリントの予習 史料についての発表準備
3	史料を読むために (2) 古書冊学、文書形式学、史料の種類について	講義、質疑応答	4 回授業プリントの予習 史料についての発表準備
4	史料を読むために (3) 暦について	講義、質疑応答	5 回授業プリントの予習 史料についての発表準備
5	史料を読むために (4) 図像解釈学と絵画資料	講義、質疑応答	6 回授業プリントの予習 史料についての発表準備
6	史料を読むために (5) オーラルヒストリー	講義、質疑応答	7 回授業プリントの予習 史料についての発表準備

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
7	歴史とメディア(1) 写本からマス・メディアの登場まで、史料についての発表	講義、質疑応答、発表と講評	8回授業プリントの予習 史料についての発表準備
8	歴史とメディア(2) 現代メディアがもたらす問題点、史料についての発表	講義、質疑応答、発表と講評	9回授業プリントの予習 史料についての発表準備
9	歴史教育(1) 国際歴史教科書問題 ―ヨーロッパ、史料についての発表	講義、質疑応答、発表と講評	10回授業プリントの予習 史料についての発表準備
10	歴史教育(2) 国際歴史教科書問題 ―日本と韓国、史料についての発表	講義、質疑応答、発表と講評	11回授業プリントの予習 史料についての発表準備
11	歴史教育(3) 英国の歴史教育 史料についての発表	講義、質疑応答、発表と講評	12回授業プリントの予習 史料についての発表準備
12	震災と歴史 史料についての発表	講義、質疑応答	13回授業プリントの予習 レポート準備
13	研究紹介 ミッシェル・フーコーの『監獄の歴史』『狂気の歴史』	講義、質疑応答	レポート準備
定期試験を実施しない Final Exam will not be held *定期試験期間中にレポートを提出する			
14	歴史学と史料および歴史教育問題のまとめ、レポートの講評	講義、質疑応答、レポートの講評	授業の振り返り、まとめ
テキスト	なし。授業内容に関するプリントを Moodle 授業掲示板で配付するので、各自が授業前に印刷して持ってくること。		
参考書	The National Archives, Palaeography ( <a href="https://www.nationalarchives.gov.uk/palaeography/default.htm">https://www.nationalarchives.gov.uk/palaeography/default.htm</a> ) 森安彦『古文書を読もう』(講談社)		

科目名	PHL203: 哲学 A				担当教員	丹木 博一		
開講期	春/秋	開講時限	火 4 限	研究室	4214	オフィスアワー	P.19 を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2 年	連絡先		
DP 及び学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要					学修成果獲得の観点	
	1, 2	キリスト教ヒューマニズムの精神に立脚し、他者とのかかわりの中で自己形成を行う力を身につけます。学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					1-①, 2-①	
キーワード	世界の始原、存在と生成、自己への配慮、アイデアと世界、自然のロゴス							
授業の概要	西洋古代哲学の基本的特徴について理解を深めるとともに、古典的テキストを一つ取り上げ、意見交換を行いながら読進を進めることで哲学的思考に慣れ親しむ。							
達成目標 (授業の目的)	西洋古代における哲学的思考の多様な展開を理解することによって、世界と自己に対する哲学的問いを自覚できるようになる。							
到達目標 (学修成果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>西洋古代哲学の多様な思想について、その基本を理解し、表現できる。</li> <li>プラトンのテキストに関心を持ち、テキストの意味を探究できる。</li> <li>自ら哲学的問いを提起し、その問いについて論理的に考察を進めることができる。</li> </ul>							
評価方法	授業毎の課題 (20%)、授業毎のリアクションペーパー (14%)、中間レポート (2,000 字以上) (30%)、定期試験 (36%)							
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業毎の課題：事前に指示した通り課題を行い提出できたかどうか。</li> <li>リアクションペーパー：講義内容を正しく理解し、問題関心を明記できるかどうか。</li> <li>中間レポート：プラトン『アルキビアデス』について哲学的問いを提起し、その問いがどのように議論されているかを、自分の言葉で論理的に論述展開できるかどうか。</li> <li>定期試験：定期試験期間中に実施する。内容は以下の通り。いずれも持ち込み不可。36% <ul style="list-style-type: none"> <li>(i) 選択式の問題を課す。教科書及び授業内容の理解が正しいかどうか。16%</li> <li>(ii) 700～800 字の小論文を作成してもらい、哲学的な問いを一つ提起し、その問いについて自分の力で考えたことを自分の言葉で展開する。問いが哲学的であり、考察に説得力があるかどうか。20%</li> </ul> </li> </ul>							
準備学修の時間	本科目の一回 (100 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 190 分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	世界の始原への問い タレスの「水」	講義・DVD 視聴・リアクションペーパー	教科書①pp.1-14 をていねいに読んでおく。
2	世界の現れに潜む謎 ヘラクレイトスの「火」	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書①pp.15-28 をていねいに読み、要約を提出。
3	自己を形成する知の意味 ソクラテスの「無知の知」	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書①pp.58-76 をていねいに読み、要約を提出。
4	存在と知の根拠への問い プラトンの「アイデア」	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書①pp.77-96 をていねいに読み、要約を提出。
5	プラトン『アルキビアデス』講読第 1 回 青年の自意識と野望についての吟味	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書②pp.10-29 をていねいに読んでおく。
6	プラトン『アルキビアデス』講読第 2 回 知っていると思うことについての検討	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書②pp.30-46 についてポイントを整理し、提出。
7	プラトン『アルキビアデス』講読第 3 回 正義と利益の関係への問い	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書②pp.47-63 についてポイントを整理し、提出。

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
8	プラトン『アルキビアデス』講読第4回 政治家に必要な条件: 心がけと知恵	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書②pp.64-82 についてポイントを整理し、提出。
9	プラトン『アルキビアデス』講読第5回 自分への配慮と自己自身を知ること	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書②pp.82-101 についてポイントを整理し、提出。
10	プラトン『アルキビアデス』講読第6回 心身関係と魂の自己認識への問い	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書②pp.101-119 についてポイントを整理し、提出。
11	生成変化をめぐる謎 アリストテレスの「可能態・現実態」	講義・絵本朗読 ディスカッション・リアペ	中間レポート提出。教科書①pp.97-108 を読んでおく。
12	自由と習慣 アリストテレスの「エートス」	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書①pp.108-116 をていねいに読み、要約を提出。
13	ストア派の倫理と「アパテイア」 中間レポートに対するコメント	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書①pp.117-132 をていねいに読み、要約を提出。
定期試験を実施する Final Exam will be held			
14	ヘレニズムとヘブライズムの交流へ 定期試験に対するコメント	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書①pp.165-184 をていねいに読んでおく。

テキスト	① 熊野純彦『西洋哲学史—古代から中世へ』(岩波新書) ② プラトン『アルキビアデス クレイトポン』(三嶋輝夫訳)(講談社学術文庫)
参考書	岩田靖夫『ヨーロッパ思想入門』(岩波ジュニア新書) 内山勝利編『哲学の歴史 第1巻 哲学誕生』(中央公論新社)
その他 特記事項	分からないことがあれば、遠慮なく質問して欲しい。

科目名	PHL204: 哲学 B				担当教員	丹木 博一		
開講期	秋	開講時限	金 4 限	研究室	4214	オフィスアワー	P.19 を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2 年	連絡先		
DP 及び学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要					学修成果獲得の観点	
	1, 2	キリスト教ヒューマニズムの精神に立脚し、他者とのかかわりの中で自己形成を行う力を身につけます。学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					1-①, 2-①	
キーワード	私と世界、主観と客観、経験と理性、原因と自由							
授業の概要	西洋近代哲学の基本的特徴について理解を深めるとともに、古典的テキストを一つ取り上げ、意見交換を行いながら読めぬ読み進めることで哲学的思考に慣れ親しむ。							
達成目標 (授業の目的)	西洋近代における哲学的思考の多様な展開を理解することによって、世界と自己に対する哲学的問いを自覚できるようになる。							
到達目標 (学修成果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>西洋近代哲学の多様な思想について、その基本を理解し、表現できる。</li> <li>ライプニッツのテキストに関心を持ち、テキストの意味を探究できる。</li> <li>自ら哲学的問いを提起し、その問いについて論理的に考察を進めることができる。</li> </ul>							
評価方法	授業毎の課題 (20%)、授業毎のリアクションペーパー (14%)、中間レポート (2,000 字以上) (30%)、定期試験 (36%)							
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業毎の課題：事前に指示した通り課題を行い提出できたかどうか。</li> <li>リアクションペーパー：講義内容を正しく理解し、問題関心を明記できるかどうか。</li> <li>中間レポート：ライプニッツ『モノドロジー』について哲学的問いを提起し、その問いがどのように議論されているかを、自分の言葉で論理的に論述展開できるかどうか。</li> <li>定期試験：定期試験期間中に実施する。内容は以下の通り。いずれも持ち込み不可。36% <ul style="list-style-type: none"> <li>(i) 選択式の問題を課す。教科書及び授業内容の理解が正しいかどうか。16%</li> <li>(ii) 700～800 字の小論文を作成してもらい。哲学的な問いを一つ提起し、その問いについて自分の力で考えたことを自分の言葉で展開する。問いが哲学的であり、考察に説得力があるかどうか。20%</li> </ul> </li> </ul>							
準備学修の時間	本科目の一回 (100 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 190 分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	導入：近代と哲学への問い	講義・DVD 視聴・ディスカッション・リアクションペーパー	教科書①pp.1-20 をていねいに読んでおく。
2	私と世界はいかに関係しているか? (1) デカルトの「コギト」	講義・絵本・ディスカッション・リアクションペーパー	教科書①pp.1-20 をていねいに読み、要約を提出。
3	私と世界はいかに関係しているか? (2) スピノザの「様態」	講義・ディスカッション・リアクションペーパー	教科書①pp.21-38 をていねいに読み、要約を提出。
4	私と世界はいかに関係しているか? (3) ロックの「タブラ・ラサ」	講義・ディスカッション・リアクションペーパー	教科書①pp.39-56 をていねいに読み、要約を提出。
5	私と世界はいかに関係しているか? (4) ライプニッツの「モノド」	講義・写真鑑賞・ディスカッション・リアクションペーパー	教科書①pp.57-74 をていねいに読み、要約を提出。
6	ライプニッツ『モノドロジー』講読第 1 回 不可識別者同一の原理、多元論	講義・ディスカッション・リアクションペーパー	教科書②pp.11-19 をていねいに読んでおく。

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
7	ライプニッツ『モノドロジー』講読第2回 表象、欲求、微小表象、記憶	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書②pp.20-30 についてポイントを整りし、提出。
8	ライプニッツ『モノドロジー』講読第3回 理性、精神、矛盾律、充足理由律、神	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書②pp.31-39 についてポイントを整りし、提出。
9	ライプニッツ『モノドロジー』講読第4回 力能・認識・意志、可能世界、最善観	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書②pp.40-50 についてポイントを整りし、提出。
10	ライプニッツ『モノドロジー』講読第5回 宇宙の鏡、視点と眺望、褻、機械	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書②pp.51-63 についてポイントを整りし、提出。
11	ライプニッツ『モノドロジー』講読第6回 魂の不滅、予定調和、神の国	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書②pp.64-75 についてポイントを整りし、提出。
12	私と世界はいかに関係しているか? (5) ヒュームの「知覚の束」と「習慣」	講義・DVD視聴・デ ィスカッション・リア クションペーパー	中間レポート提出。教科書① pp.91-106 を読んでおく。
13	私と世界はいかに関係しているか? (6) カントの「因果性のカテゴリー」 中間レポートに対するコメント	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書①pp.123-133 をていね いに読み、要約を提出。
定期試験を実施する Final Exam will be held			
14	私と世界はいかに関係しているか? (7) カントの「自由」論 定期試験に対するコメント	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書①pp.123-133 をもう一 度読んでおく。

テキスト	① 熊野純彦『西洋哲学史—近代から現代へ』(岩波新書) ② ライプニッツ『モノドロジー 他2篇』(谷川多佳子・岡部英男訳)(岩波文庫)
参考書	岩田靖夫『ヨーロッパ思想入門』(岩波ジュニア新書) 小林道夫編『哲学の歴史 第5巻 デカルト革命』(中央公論新社)
その他 特記事項	分からないことがあれば、遠慮なく質問して欲しい。

科目名	PHL205: 女性と哲学 A				担当教員	上田 圭委子		
開講期	春	開講時限	木3限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	1, 2	キリスト教ヒューマンイズムの精神に立脚し、他者とのかかわりの中で自己形成を行う力を身につけます。学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					1-①, 2-①	
キーワード	神、愛、労働、美、宇宙、真理							
授業の概要	この授業では、20世紀フランスの女性哲学者シモーヌ・ヴェイユの『重力と恩寵』を読みます。毎回、各章の表題として設定されたテーマに沿って、テーマに関連するヴェイユの他の著作と、その他の哲学的な文献を参照しながら、彼女の思想と、その背景となっている哲学的な考え方について学びます。また、毎回の授業の後半では、テーマに関連する現代の哲学的な問題についてグループでディスカッションをする時間を取ります。							
達成目標(授業の目的)	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な哲学の用語や概念を理解することができる。</li> <li>20世紀のさまざまな問題について真剣に考えながら生きた女性哲学者の思想を学び、また仲間と議論することで、現代社会のさまざまな問題について、自分自身も、より深く考えることができるようになる。</li> <li>授業を通して多くの哲学文献に触れることで、哲学的な文章を正確に読み、またそれに対する自らの考えを明確に表現することができるようになる。</li> </ul>							
到達目標(学修成果)	<p>①シモーヌ・ヴェイユの思想とその基盤となっている古今東西の哲学史上の重要な諸思想についての知識を得ることができる。</p> <p>②現代社会におけるさまざまな問題について、その本質を哲学的な知見をもとに的確に捉え、それに対する自らの考えを明確に表現することができるようになる。</p> <p>③哲学的な書物を一人で読み、理解し、解釈するために必要な基礎知識を習得できる。</p>							
評価方法	<p>①授業内小テスト 10%</p> <p>②授業時の積極的参加とリアクションペーパーの提出 50%</p> <p>③期末レポート(2000字) 40%</p>							
評価基準	<p>①授業で学んだヴェイユの思想の背景となっている哲学史上の基礎概念を理解しているか。</p> <p>②毎回の授業に積極的に参加し、理解した内容およびそれについての自分なりの考えを、リアクションペーパーの中での的確に表現し、提出できているか。</p> <p>③期末レポートにおいて、『重力と恩寵』もしくは任意の女性思想家の文章から各自が選んだ箇所について、その思想の内容を適切に理解し、それを言葉にすることができているか。</p>							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	シモーヌ・ヴェイユの生涯と思想の概説と『重力と恩寵』という書物の成立について	講義、グループ討議、リアクションペーパー	テキストと配布資料の復習
2	『重力と恩寵』を読む① 魂が感じる下への力としての「重力」	講義、グループ討議、リアクションペーパー	テキストと配布資料の復習
3	『重力と恩寵』を読む② 真空とそれを満たす恩寵	講義、グループ討議、リアクションペーパー	テキストと配布資料の復習
4	『重力と恩寵』を読む③ 執着を断つということ	講義、グループ討議、リアクションペーパー	テキストと配布資料の復習
5	『重力と恩寵』を読む④ 過去および未来とのかかわり	講義、グループ討議、リアクションペーパー	テキストと配布資料の復習
6	『重力と恩寵』を読む⑤ 自我について	講義、グループ討議、リアクションペーパー	テキストと配布資料の復習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
7	『重力と恩寵』を読む⑥ 神の愛と創造	講義、グループ討議、 リアクションペーパー	テキストと配布資料の復習
8	『重力と恩寵』を読む⑦ 必然を愛すること、授業内小テスト	講義、小テスト、討議、 リアクションペーパー	テキストと配布資料の復習
9	『重力と恩寵』を読む⑧ 愛について、小テストの講評	講義、グループ討議、 リアクションペーパー	テキストと配布資料の復習
10	『重力と恩寵』を読む⑨ 悪について	講義、グループ討議、 リアクションペーパー	テキストと配布資料の復習、 期末レポートの構想
11	『重力と恩寵』を読む⑩ 不幸と戦争による暴力について	講義、グループ討議、 リアクションペーパー	テキストと配布資料の復習、 期末レポートの準備
12	『重力と恩寵』を読む⑪ 宇宙の意味について	講義、グループ討議、 リアクションペーパー	テキストと配布資料の復習、 期末レポートの作成
13	『重力と恩寵』を読む⑫ 労働について	講義、グループ討議、 期末レポートの提出	テキストと配布資料の復習
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	『重力と恩寵』を読む⑬ 美について	講義、グループ討議、 リアクションペーパー	テキストと配布資料の復習

テキスト	シモーヌ・ヴェイユ『重力と恩寵』富原真弓訳(岩波文庫)
参考書	シルヴィ・クルティエヌ＝ドゥナミ『暗い時代の三人の女性』(晃洋書房)



科目名	PHL206: 女性と哲学 B				担当教員	上田 圭委子		
開講期	春	開講時限	木 4 限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.19 を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP 及び 学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要					学修成果獲得の観点	
	1, 2	キリスト教ヒューマニズムの精神に立脚し、他者とのかかわりの中で自己形成を行う力を身につけます。学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					1-①, 2-①	
キーワード	現象学、実存哲学、悪、全体主義、戦争責任、教育、女性、真理、愛							
授業の概要	この授業では、20 世紀の激動の時代を生きた 2 人のユダヤ人女性哲学者の思想を学びます。彼女たちの著作の抜粋を読み、またその哲学的背景に触れながら、現代社会におけるさまざまな問題について、哲学的な観点から考察します。毎回、授業の後半には、グループディスカッションの時間を設けます。							
達成目標 (授業の目的)	<ul style="list-style-type: none"> <li>20 世紀の高名な女性哲学者であるエディット・シュタインおよびハンナ・アーレントの思想の概略を、実際に彼女たちの文章の抜粋を読みながら学ぶことができる。</li> <li>彼女たちの思想の背景となっている現象学、実存哲学といった 20 世紀の現代哲学の重要な思想の基本的な考え方を学ぶことができる。</li> <li>全体主義や人種差別の起原、組織の中での個人の責任、女性の生き方等を扱った哲学的文章を読み、仲間と議論することで、よりよい未来を築くための示唆を得ることができる。</li> </ul>							
到達目標 (学修成果)	<p>① 哲学的な背景を持つ言葉の意味を理解し、論理的な文章を正確に読み、それについての自らの考えを明確な言葉で記述できるようになる。</p> <p>② 自らが関心を持っている事象について、さまざまな視点がありうることを考慮したうえで、自分なりの考えを展開することができるようになる。</p>							
評価方法	授業への積極的参加とリアクションペーパー 60%、 期末レポート (2000 字) 40%							
評価基準	<p>① 毎回の授業に積極的に参加し、仲間と活発に議論し、授業の内容をよく理解したうえで、リアクションペーパーを記入し、提出できているか。</p> <p>② 自らが関心を持っている哲学的な問題について、授業で学んだことを生かしつつ、論述を展開できているか。他者の考えの引用と自分の考えを区別しながら論じられているか。</p>							
準備学修 の時間	本科目の一回 (100 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 190 分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	エディット・シュタインの思想①フッサール現象学との出会いと「現象学とは何か」	講義、グループ討議、リアクションペーパー	配布資料の復習
2	エディット・シュタインの思想②主著『有限なる存在と永遠なる存在』とスコラ学	講義、グループ討議、リアクションペーパー	配布資料の復習
3	エディット・シュタインの思想③ハイデガー『存在と時間』との対決	講義、グループ討議、リアクションペーパー	配布資料の復習
4	エディット・シュタインの思想④女性の教育論と使命論	講義、グループ討議、リアクションペーパー	配布資料の復習
5	エディット・シュタインの思想⑤カルメル会への入会とカルメル会の思想	講義、グループ討議、リアクションペーパー	配布資料の復習
6	エディット・シュタインの思想⑥『十字架の学問』と真理への献身の生涯	講義、グループ討議、リアクションペーパー	配布資料の復習
7	ハンナ・アーレントの思想①ハイデガーとの出会いとアウグスティヌス論	講義、グループ討議、リアクションペーパー	配布資料の復習
8	ハンナ・アーレントの思想②エルサレムのアイヒマン』と悪の凡庸さについて	講義、グループ討議、リアクションペーパー	配布資料の復習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
9	ハンナ・アーレントの思想③『責任と判断』の抜粋を読む	講義、グループ討議、リアクションペーパー	配布資料の復習
10	ハンナ・アーレントの思想④『全体主義の起原』の抜粋を読む	講義、グループ討議、リアクションペーパー	配布資料の復習
11	ハンナ・アーレントの思想⑤『活動的生(人間の条件)』の抜粋を読む	講義、グループ討議、リアクションペーパー	配布資料の復習
12	ハンナ・アーレントの思想⑥『精神の生活』の抜粋を読む	講義、グループ討議、リアクションペーパー	配布資料の復習
13	ハンナ・アーレントの思想⑦レッシング論と『賢者ナータン』	講義、討議、期末レポートの提出	配布資料の復習
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	ハンナ・アーレントの思想⑧ヤスパースとの友情とヤスパース論	講義、グループ討議、リアクションペーパー	配布資料の復習
テキスト	毎回、資料を配布します。		
参考書	矢野久美子『ハンナ・アーレント』(中公新書) 須沢かおり『エディット・シュタインの道程』(知泉書館)		

科目名	REL201: 宗教学 A				担当教員	小林 宏子		
開講期	春/秋	開講時限	(春) 木5限 (秋) 月3限	研究室	4204	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	1, 2	キリスト教ヒューマンイズムの精神に立脚し、他者とのかかわりの中で自己形成を行う力を身につけます。学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					1-①, 2-①	
キーワード	聖書、創造、神の似姿、原罪、契約、信仰、約束の地、過越、バビロン捕囚、メシア待望							
授業の概要	旧約聖書と呼ばれる部分に記されたイスラエル民族の歴史を、イエス・キリストの到来を準備する神の救い働きかけの展開として理解する立場から学ぶ。神の語りかけを信じ、その成就に人生を賭ける人々が切り拓いた信仰共同体の歩みは、どのような困難や誘惑に晒され、存亡の危機を克服して続いてきたのかを考察する。							
達成目標(授業の目的)	キリスト教における旧約聖書の基礎的知識を得る。西洋キリスト教文化圏においては常識として語られる聖書の登場人物像や用語について、その社会的背景を踏まえた聖書思想上の意味と内容を学ぶことによって、発想の転換を必要とする異文化交流における相互理解のための一助とすることができる。							
到達目標(学修成果)	①旧約聖書やキリスト教の基礎的知識を、用語や概念の意味と内容の理解を通して得る ②聖書の言葉をその字面だけでなく歴史的・文化的背景を含めて理解し、神概念や信仰に関する事柄を自分の言葉で表現できる ③聖書に登場する人物像の理解を通して人間の本質とその救いの意味について考察した事柄を自分の意見を、聖書解釈に関連づけながら、分かりやすく論述することができる							
評価方法	①用語テスト(3%×6回=18%) ②授業内の意見交換における積極的発言(1%×14回=14%)、及び授業のリアクションペーパーをMoodleに提出(2%×13回=26%) ③定期(期末)試験による解答(22%)と小論文(20%)							
評価基準	①旧約聖書に登場する人物像や用語を正しく理解していること ②準備学修として指定された箇所を予習した上で授業に臨み、授業のリアクションペーパーには、聖書解釈上の知識を含めたコメントを自分の言葉で表現できること ③テキストと授業内容を正しく理解していること、及び「旧約聖書の登場人物の中で最も興味を引く人物は誰か、また、それはなぜか」について700~800字の小論文を書けること							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	講義の概要と旧約聖書の基礎知識	講義、意見交換	テキスト pp.10-12, 76-79 の予習、配布プリントの復習、授業のリアクションペーパーの提出
2	創世記 1章 天地創造と人間の召命	聖書講読、意見交換 用語テスト①	テキスト pp.34-37, 80-85 の予習、配布プリントの復習、授業のリアクションペーパーの提出
3	創世記 2-3章 人間の創造、 禁断の実と人間の罪	聖書講読、意見交換	テキスト pp.50-51, 86-87 の予習、配布プリントの復習、授業のリアクションペーパーの提出
4	創世記 4章 カインとアベルの物語	聖書講読、意見交換 用語テスト②	テキスト pp.88-89 の予習、配布プリントの復習、授業のリアクションペーパーの提出

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
5	創世記 6-11 章 ノアの箱舟の物語、 バベルの塔の物語	聖書講読、意見交換	テキスト pp.90-93 の予習、 配布プリントの復習、授業の リアクションペーパーの提出
6	創世記 12、15、17 章 アブラハムの召命 契約の思想	聖書講読、意見交換 用語テスト③	テキスト pp.94-95 の予習、 配布プリントの復習、授業の リアクションペーパーの提出
7	創世記 18、21 章 信仰の試練	聖書講読、意見交換	テキスト pp.44-45、14-17 の予習、 配布プリントの復習、授業の リアクションペーパーの提出
8	出エジプト記 1-3 章 モーセの召命	聖書講読、意見交換 用語テスト④	テキスト pp. 96-97 の予習、 配布プリントの復習、授業の リアクションペーパーの提出
9	出エジプト記 12 章 過越祭	聖書講読、意見交換	テキスト pp.98-99 の予習、 配布プリントの復習、授業の リアクションペーパーの提出
10	出エジプト記 20 章 十戒	聖書講読、意見交換 用語テスト⑤	テキスト pp.100-101 の予習、 配布プリントの復習、授業の リアクションペーパーの提出
11	サムエル記上 8 章 王たちの物語 サムエル記下 11-12 章 ウリヤの妻バト・ シェバ	聖書講読、意見交換	テキスト pp.102-107 の予習、 配布プリントの復習、授業の リアクションペーパーの提出
12	列王記上 21 章 土地の意味と王の権力 アモス書 預言者の社会批判	聖書講読、意見交換 用語テスト⑥	テキスト pp.108-109 の予習、 配布プリントの復習、授業の リアクションペーパーの提出
13	イザヤ書 52-53 章 預言者の苦しみ	聖書講読、意見交換	テキスト pp.110-111 の予習、 配布プリントの復習、授業の リアクションペーパーの提出
定期試験を実施する Final Exam will be held			
14	エルサレムへの帰還、メシアニズムの成長 定期試験の講評	聖書講読、意見交換 講評	配布プリントの復習
テキスト	月本昭男(監修)『超図解 一番わかりやすいキリスト教入門』(東洋経済新報社)		
参考書	雨宮慧『図解雑学 旧約聖書』(ナツメ社) 池上彰『池上彰の宗教がわかれば世界が見える』(文春新書)		

科目名	REL202: 宗教学 B				担当教員	小林 宏子		
開講期	秋	開講時限	木3限	研究室	4204	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	1,2	キリスト教ヒューマニズムの精神に立脚し、他者とのかかわりの中で自己形成を行う力を身につけます。学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					1-①, 2-①	
キーワード	キリスト教、聖書、契約、神の国、信仰、救い、罪の赦し、隣人愛、永遠の生命、希望							
授業の概要	新約聖書の講読を通して1世紀のユダヤ社会に登場したイエスの生涯とそのメッセージの意味を学ぶ。なぜ、イエスが救い主と信じられたのか、どのような人々がイエスの中に神の救いの意思を見出したのか、なぜ、イエスは十字架上で死ななければならなかったのかなど、キリスト教信仰における人間の救いはどのように理解され得るのかを学ぶ。							
達成目標(授業の目的)	新約聖書の講読を通して西洋思想の根底に流れるキリスト教信仰の基礎知識を得る。特に、西洋文化圏において常識的に使用される聖書起源の用語やたとえ話が、聖書では具体的にどのような文脈の中で描かれているのかを学ぶことで、キリスト教信仰が成立した社会背景と救いの概念を理解し、宗教にまつわる異文化理解の一助とすることが目的である。							
到達目標(学修成果)	①新約聖書やキリスト教の基礎的知識を、用語や概念の意味と内容の理解を通して得る ②聖書の言葉をその字面だけでなく歴史的・文化的背景を含めて理解し、人間の宗教的営みに関する事柄を自分の言葉で表現できる ③キリスト教の信仰理解を通して人間の救いの意味について考察した自分の意見を、聖書解釈に関連づけながら、分かりやすく論述することができる							
評価方法	①用語テスト(3%×6回=18%) ②授業内の意見交換における積極的発言(1%×14回=14%)、及び授業のリアクションペーパーをMoodleに提出(2%×13回=26%) ③定期(期末)試験における解答(22%)と小論文(20%)							
評価基準	①新約聖書やキリスト教で用いられる用語を正しく理解していること ②準備学修として指定された箇所を予習した上で授業に臨み、授業のリアクションペーパーにはキリスト教的聖書解釈の知識を含めたコメントを、自分の言葉で表現できること ③テキストと授業の内容を正しく理解していること、及び「キリスト教が説く救いは現代社会においてどのような意味を持つのか」について700~800字の小論文を書けること							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の前の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	講義の概要 新約聖書の基礎知識	講義、意見交換	テキスト pp.114-117の予習、配布プリントの復習、授業のリアクションペーパーの提出
2	新約聖書の世界(1) ユダヤ教の宗派、神の国の宣教	聖書講読、意見交換 用語テスト①	テキスト pp.118-123及びマタイ 20:1-16の予習、授業のリアクションペーパーの提出
3	新約聖書の世界(2) イエスの弟子たち、ファリサイ派と徴税人	聖書講読、意見交換	テキスト pp.124-125及びルカ 18:9-14の予習、授業のリアクションペーパーの提出
4	イエスの宣教(1) 奇跡物語、罪の赦し	聖書講読、意見交換 用語テスト②	テキスト pp.126-127及びマタイ 8:23-9:8の予習、授業のリアクションペーパーの提出

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
5	イエスの宣教(2) 山上の説教	聖書講読、意見交換	テキスト pp.128-129 及びマタイ 5章、6:25-7:12の予習、授業のリアクションペーパーの提出
6	イエスの宣教(3) 慈しみ深い神、放蕩息子のたとえ話、 主の祈り	聖書講読、意見交換 用語テスト③	テキスト pp.130-131 及びルカ 15:1-32の予習、授業のリアクションペーパーの提出
7	イエスの受難(4) 永遠の命、隣人愛の掟、善きサマリア人の たとえ	聖書講読、意見交換	マタイ 25:31-46、ルカ 10:25-37の予習、授業のリアクションペーパーの提出
8	イエスの受難(1) エルサレム入城、最後の晚餐、新しい契約	聖書講読、意見交換 用語テスト④	テキスト pp.132-135 及びマタイ 21章、26章の予習、授業のリアクションペーパーの提出
9	イエスの受難(2) 死刑判決、十字架の道行き	聖書講読、意見交換	テキスト pp.136-138 及びルカ 23章の予習、授業のリアクションペーパーの提出
10	イエスの受難(3) 十字架上の死、イエスの受難と死の意味	聖書講読、意見交換 用語テスト⑤	テキスト p.139 及びヨハネ 19章の予習、授業のリアクションペーパーの提出
11	イエスの復活(1) 復活者イエスとの出会い	聖書講読、意見交換	テキスト pp.140-141 及びマタイ 28章、ルカ 24章の予習、授業のリアクションペーパーの提出
12	イエスの復活(2) 使徒たちに受け継がれる宣教の使命	聖書講読、意見交換 用語テスト⑥	テキスト pp.142-143 及びヨハネ 20章の予習、授業のリアクションペーパーの提出
13	イエスの復活(3) パウロの召命	聖書講読、意見交換	テキスト pp.144-146 及び使徒言行録 8-9章の予習、授業のリアクションペーパーの提出
定期試験を実施する Final Exam will be held			
14	キリスト教の広まり 期末試験に対するコメント	聖書講読、意見交換 講評	テキスト pp.148-149 の予習

テキスト	月本昭男(監修)『超図解 一番わかりやすいキリスト教入門』(東洋経済新報社) 『新約聖書』(人間学 I の授業で配布されるもの)
参考書	百瀬文晃『キリスト教の原点』(教友社) 雨宮慧『聖書に聞く』(オリエンズ宗教研究所)

科目名	MUS201: 音楽 A				担当教員	北村 さおり		
開講期	春	開講時限	月 2 限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.19 を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP 及び 学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要					学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					2-①	
キーワード	西洋音楽史、音楽、美術、ヨーロッパ、クラシック、音楽鑑賞、歌、オペラ							
授業の概要	声楽作品を中心に、時代ごとの演奏様式や歴史的背景の知識を深めながら西洋音楽史を学ぶ。鑑賞では楽典の知識を用いた専門的な分析にこだわらず、また、「好き・嫌い」といった趣向に左右された感想に終始せず、その歴史的社会的な背景から作品の独創性や受容について考察を試みる。授業毎に予習・復習の課題を課す。							
達成目標 (授業の目的)	西洋音楽の歴史は美術、文学、演劇、社会、政治などと絡み合っており、音楽をひとつの切り口とした「西洋史」でもある。そして、現在のあらゆるジャンルの音楽の源でもある。クラシック音楽の経験が浅くとも、中世からロマン派までの音楽史の推移を理解し、作曲家や作品の特徴を多角的に分析することで、現代に生きる我々の美学的観点におけるアイデンティティを考察するきっかけとする。							
到達目標 (学修成果)	音楽史を理解し、作品の解釈を試みることにより、自己と芸術との関わりを考え、自己の感性を磨き、表現の幅を広げる。							
評価方法	①授業課題提出 2%×10回=20% ②授業内試験 70% ③期末レポート課題 10%							
評価基準	①予習・復習を目的とした授業毎の課題を翌週の授業で提出する。 ②自筆ノート、提出した授業課題のみの持ち込みを可とする。教科書や配布プリントの持ち込みは禁止。テキストと授業の内容を的確に理解しているかどうか。 ③任意の作品やテーマについてのレポート提出。調べ学習にとどまらず、授業を踏まえた内容で、自身の考えを比較や考察を加えて論述すること。(引用や参考文献など、レポートの形式が整っているもののみ採点対象とする)							
準備学修 の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	音楽の始まり:「リベラルアーツの音楽〜その役割と重要性」、中世:「抽象性と教会音楽 グレゴリオ聖歌」	講義、鑑賞、ノート記入	予習:テキストを読み、用語等は事前に調べておく。 復習:授業課題①をする。
2	ルネサンス:「美の発見と多声音楽」	講義、鑑賞、ノート記入	予習:テキストを読み、用語等は事前に調べておく。 復習:授業課題②をする。
3	バロック:「劇化する音楽」「オペラの誕生と器楽の興隆」	講義、鑑賞、ノート記入	予習:テキストを読み、用語等は事前に調べておく。 復習:授業課題③をする。
4	バロック:「市民に開かれる音楽へ」ヘンデル、バッハ	講義、鑑賞、ノート記入	予習:テキストを読み、用語等は事前に調べておく。 復習:授業課題④をする。
5	古典:「近代市民音楽の始まり」「ホモフォニーとソナタ形式」ハイドン	講義、鑑賞、ノート記入	予習:テキストを読み、用語等は事前に調べておく。 復習:授業課題⑤をする。

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
6	古典:「自由な音楽活動」「神童」モーツァルト	講義、鑑賞、ノート記入	予習:テキストを読み、用語等は事前に調べておく。 復習:授業課題⑥をする。
7	古典:「自己表現としての音楽」ベートーヴェン	講義、鑑賞、ノート記入	予習:テキストを読み、用語等は事前に調べておく。 復習:授業課題⑦をする。
8	ロマン派:「革命のもたらした幻滅」「憧れ、恐怖、愛と夢」「ドイツリート」シューベルト、シューマン、ブラームス	講義、鑑賞、ノート記入	予習:テキストを読み、用語等は事前に調べておく。 復習:授業課題⑧をする。
9	ロマン派:「内面世界」「性格的小品」シューマン	講義、鑑賞、ノート記入	予習:テキストを読み、用語等は事前に調べておく。 復習:授業課題⑨をする。
10	ロマン派:「芸術性の追求と娯楽的サロン音楽」「個性と独創性」ショパン、リスト	講義、鑑賞、ノート記入	予習:テキストを読み、用語等は事前に調べておく。 復習:試験の準備
11	授業内試験、自己採点、解説	試験、自己採点、解説	試験の準備と振り返り
12	後期ロマン派:「肥大する音楽」「崩壊する調性」	講義、鑑賞、ノート記入	予習:テキストを読み、用語等は事前に調べておく。 復習:授業課題⑩をする。
13	後期ロマン派~20世紀:「崩壊する調性」「世紀末」「西洋からの離脱」ワーグナー、マーラー、シェーンベルク	講義、鑑賞、ノート記入	予習:テキストを読み、用語等は事前に調べておく。 復習:授業の振り返り
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	まとめ	講義	授業の振り返り

テキスト	長沼由美/二藤宏美『大人の音楽史入門 CD付』(ヤマハミュージックメディア)
参考書	岡田暁生『西洋音楽史』(NHK出版) 田村和紀夫『クラシック音楽の世界』(新星出版社)



科目名	MUS202: 音楽 B				担当教員	北村 さおり		
開講期	春	開講時限	月 3 限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.19 を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP 及び 学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要					学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					2-①	
キーワード	西洋音楽史、オペラ、クラシック、ヨーロッパ							
授業の概要	映像資料を用いてオペラ全幕を授業内に鑑賞する。作曲家や時代背景、鑑賞するプロダクションの出演者や演出などの分野について、受講生それぞれが、講師が指定する発表分野を分担し、レポート(レジュメや資料)を提出する。発表担当が準備してきたことを全員(またはグループ)で共有し、鑑賞の知識を増やし、討論を行う。発表や討論の方法は受講人数によってグループとなる可能性もある。最初の授業でグループ分けや担当を決める。							
達成目標 (授業の目的)	総合芸術と言われるオペラについて、オペラの歴史や作品の背景を学ぶ。楽典の知識を用いた専門的な分析にこだわらず、また、「好き・嫌い」といった趣向に左右された感想に終始せず、その歴史的社会的な背景、台本、演出、美術、制作など、多角的な視点から考察や討論を試みる。必要な情報を端的にまとめ、発表し、討論を導く。							
到達目標 (学修成果)	鑑賞の楽しみ方を知り、芸術に関心を持てるようになる。オペラを学ぶことを通して自己と芸術との関わりを考え、自己の感性を磨き、表現の幅を広げることができる。							
評価方法	①担当した発表内容についての評価：40% ②他の担当者による発表に対するリアクションペーパーや、予習・復習として出す授業課題：40% ③発表に対する質問や討論での発言など、授業内での評価：20%							
評価基準	①必要な情報を正しく収集し、端的にまとめられ、自身の考察、論述ができていないか。(ネット検索や辞書を1つだけ参照し、丸写しすることは認めない。レポート作成のルールに準じる) ②他の発表を精査して聞き、疑問点などをまとめることができていないか。 ③授業の進行に有意義な発言や相手の考えを引き出すような質問ができていないか。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	講義概要 オペラとは	講義、鑑賞	予習：西洋史の概要 復習：授業課題①
2	オペラの成り立ち オペラとバロックの幕開け	講義、鑑賞、リアクションペーパー	予習：西洋音楽史のバロック 復習：授業課題②
3	モーツァルト「フィガロの結婚」 発表、質疑応答、鑑賞1	講義、発表、鑑賞、リアクションペーパー	予習：西洋音楽史の古典派 復習：授業課題③
4	モーツァルト「フィガロの結婚」 発表、質疑応答、鑑賞2	講義、鑑賞	予習・復習：鑑賞のまとめ
5	モーツァルト「フィガロの結婚」 発表、質疑応答、鑑賞3、討論	講義、鑑賞、討論、リアクションペーパー	予習・復習：授業課題④
6	ロッシーニ「セヴィリアの理髪師」 発表、質疑応答、鑑賞1	講義、発表、鑑賞、リアクションペーパー	予習：西洋音楽史のロマン派 復習：授業課題⑤
7	ロッシーニ「セヴィリアの理髪師」 発表、質疑応答、鑑賞2	講義、鑑賞	予習・復習：鑑賞のまとめ

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
8	ロッシーニ「セヴィリアの理髪師」 発表、質疑応答、鑑賞3、討論 ドニゼッティ「ランメルモールのルチア」 発表、質疑応答、鑑賞1	講義、発表、鑑賞、討論、リアクションペーパー	予習・復習：授業課題⑥
9	ドニゼッティ「ランメルモールのルチア」 発表、質疑応答、鑑賞2	講義、鑑賞	予習・復習：鑑賞のまとめ
10	ドニゼッティ「ランメルモールのルチア」 発表、質疑応答、鑑賞3、討論	講義、鑑賞、討論、リアクションペーパー	予習・復習：授業課題⑦
11	ヴェルディ「椿姫」 発表、質疑応答、鑑賞1	講義、発表、鑑賞、リアクションペーパー	予習・復習：授業課題⑧
12	ヴェルディ「椿姫」 発表、質疑応答、鑑賞2	講義、鑑賞	予習・復習：鑑賞のまとめ
13	ヴェルディ「椿姫」 発表、質疑応答、鑑賞3、討論 ワーグナーの楽劇	講義、発表、鑑賞、討論	予習：西洋音楽史の世紀末 復習：授業課題⑨
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	まとめ 総評	講義、討論、リアクションペーパー	授業の振り返り

テキスト	プリントを配布する
参考書	水谷彰良『新 イタリア・オペラ史』(音楽の友社) 岡田暁生『西洋音楽史』(NHK 出版) 加藤浩子『オペラでわかるヨーロッパ史』(平凡社新書) 長沼由美/二藤宏美『大人の音楽史入門 CD付』(ヤマハミュージックメディア)
その他 特記事項	基礎的な西洋音楽史、または、ヨーロッパ史の知識がある方が望ましいが、足りない者は予習を入念に行うこと。楽典の専門知識は必要としない。

科目名	SOC201: 社会学 A				担当教員	李 侖姫		
開講期	春/秋	開講時限	月 4 限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.19 を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP 及び 学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要					学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					2-①	
キーワード	社会学の基本概念、社会学理論、社会構造、個人と社会							
授業の概要	本講義では、社会学理論を中心に「社会学とは何か」について考察する。社会学的想像力、社会構造、文化、ネットワーク、権力、機能、社会的相互作用、地位と役割などの社会学の基本的な概念について学ぶ。そして、身近な社会現象をどのように理解するのか、すなわち、個人的な経験がどのようにして社会過程によって作られるのかについて学習する。本講義は、配布資料を解説する講義形式で進める。							
達成目標 (授業の目的)	社会学の基本概念と考え方に慣れ親しみ、日常生活で経験する個人的な出来事を社会学的な視点で読み解く力を学習することを目的とする。日々の生活の中で、様々な社会現象を社会学的に考えてみるという訓練、そして、社会関係を構築するための実践的な思考力を身につけることを達成目標とする。							
到達目標 (学修成果)	1. 学生が日常生活で経験する身近な社会現象を社会学的な視点で考えることができる。 2. 学生が社会学の基本概念を理解し、様々な社会現象に対する社会学的視点を身に付ける。 3. 学生が社会学理論の様々なアプローチを学習し、様々な社会問題に適用できる。							
評価方法	1. 小テスト (客観テスト 5 回) 50% 2. 定期試験 (客観テスト) 50%							
評価基準	1. 小テストによって講義内容をきちんと学習し理解しているかどうかを評価する。 2. 定期試験 (客観テスト・選択式 50 問: ○×式問題、選択問題、語群から適切な語を選択し、文の空所を埋める問題) を通して、社会学の基本概念と各理論、社会学用語を学習しているかどうかを評価する。							
準備学修 の時間	本科目の一回 (100 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 190 分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	オリエンテーション: 社会学的想像力	講義、質疑応答	毎回、配布される講義資料の復習、参考文献の一読
2	理論とは何か: 社会学と科学、理論、概念、命題、仮説	講義、質疑応答	講義資料の復習、参考文献の一読
3	社会学理論: ①機能理論	講義、質疑応答 小テスト 1 回目	講義資料の復習、参考文献の一読
4	社会学理論: ②紛争理論、小テストの講評	講義、質疑応答	講義資料の復習、参考文献の一読
5	社会学理論: ③象徴的相互作用理論	講義、質疑応答 小テスト 2 回目	講義資料の復習、参考文献の一読
6	社会学理論: ④交換理論、小テストの講評	講義、質疑応答	講義資料の復習、参考文献の一読
7	文化: 文化の特性、文化の基本的要素、文化遅滞、エスノセントリズム、下位文化	講義、質疑応答 小テスト 3 回目	講義資料の復習、小テストのための復習
8	文化と経済: プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神、小テストの講評	講義、質疑応答	講義資料の復習、参考文献の一読
9	社会的相互作用: 一次的関係、二次的関係、競争、協同、準拠集団	講義、質疑応答 小テスト 4 回目	講義資料の復習、参考文献の一読

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
10	地位と役割：地位群と役割群、役割葛藤、小テストの講評	講義、質疑応答	講義資料の復習、参考文献の一読
11	組織：官僚制の特徴	講義、質疑応答 小テスト5回目	講義資料の復習、参考文献の一読
12	ネットワーク：ネットワークとは何か、紐帯の内容と強さ、密度、小テストの講評	講義、質疑応答	講義資料の復習、参考文献の一読
13	ネットワークの構造と機能：閉鎖型と開放型ネットワーク	講義、質疑応答	講義資料の復習、参考文献の一読
定期試験を実施する Final Exam will be held			
14	社会学のまとめ 試験の解説	社会学講義内容のまとめと試験問題の解説	講義資料を受け取っていない学生のために資料を準備

テキスト	特に指定しない。毎回の授業で、穴埋め式の講義内容に関する資料を配布する。
参考書	1. 高根 正昭(1979)『創造の方法学』(講談社現代新書) 2. アンソニー・ギデンズ著、松尾清文ほか訳(2009)『社会学 第5版』(両立書房)
その他特記事項	授業内で適宜、関連文献を紹介する。講義資料の内容と合わせてより詳しく学習したい場合には、参考書と合わせて、関連文献を一読することをお勧めする。

科目名	SOC202: 社会学 B				担当教員	李 侖姫		
開講期	春/秋	開講時限	月 5 限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.19 を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP 及び 学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要					学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					2-①	
キーワード	社会学の基本概念、社会調査法、個人と社会							
授業の概要	本講義では、様々な社会現象を社会学的視点から理解する。例えば、社会化、ジェンダー、ライフコース、文化と消費、企業とネットワーク、逸脱、宗教、社会変動など、社会現象の各領域について考察する。また、本講義では、基本的な調査法（サーベイ、実験、観察、文書分析）について理解し、どのようにして社会現象を観察し分析するのかを学習する。本講義は、配布資料を解説する講義形式で進める。							
達成目標 (授業の目的)	日々の生活の中で、様々な社会現象を社会的に考えてみるという訓練、そして、社会関係を構築するための実践的な思考力を身につけることを目的とする。本講義では、特に社会学の各領域に関する基本的な概念によって具体的な内容を理解し、そして、調査方法全般について勉強する。							
到達目標 (学修成果)	1. 学生が日常生活で経験する身近な社会現象を社会的な視点で考えることができる。 2. 学生が社会学の各領域に関する基本概念を理解し、様々な社会現象に対する社会的視点を身に付ける。 3. 学生が調査方法の全般について学習し、様々な社会問題を分析し、考察することができる。							
評価方法	1. 小テスト（客観テスト 5 回） 50% 2. 定期試験（客観テスト） 50%							
評価基準	1. 小テストによって講義内容をきちんと学習し理解しているかどうかを評価する。 2. 定期試験（客観テスト・選択式 50 問：○×式問題、選択問題、語群から適切な語を選択し、文の空所を埋める問題）を通して、社会学の基本概念と各理論、社会学用語を学習しているかどうかを評価する。							
準備学修 の時間	本科目の一回（100 分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均 190 分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	オリエンテーション：社会学的視点	講義、質疑応答	毎回、配布される講義資料の復習、参考文献の一読
2	社会化：生まれか育ちか？社会階層と社会化、社会化のエージェント	講義、質疑応答	講義資料の復習、参考文献の一読
3	ジェンダー：性とジェンダー、ジェンダー役割と社会化	講義、質疑応答	講義資料の復習、参考文献の一読
4	ライフコース：個人の人生と歴史的出来事、社会構造との関係	講義、質疑応答 小テスト 1 回目	講義資料の復習、参考文献の一読
5	文化と消費：準拠集団と消費、地位と消費、小テストの講評	講義、質疑応答	講義資料の復習、参考文献の一読
6	企業とネットワーク：産業と企業間ネットワーク、起業家とネットワーク	講義、質疑応答 小テスト 2 回目	講義資料の復習、参考文献の一読
7	逸脱：デュルケム、マートンのアノミー概念、ラベリング理論、小テストの講評	講義、質疑応答	講義資料の復習、小テストのための復習
8	宗教：宗教の定義、基本要素、宗教と社会秩序、宗教と近代化	講義、質疑応答 小テスト 3 回目	講義資料の復習、参考文献の一読

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
9	社会変動：古典理論(マルクス、ウェーバー、デュルケム)と現代の理論、小テストの講評	講義、質疑応答	講義資料の復習、参考文献の一読
10	社会調査法1：調査過程とサーベイ法	講義、質疑応答 小テスト4回目	講義資料の復習、参考文献の一読
11	社会調査法2：実験法、小テストの講評	講義、質疑応答	講義資料の復習、参考文献の一読
12	社会調査法3：観察法	講義、質疑応答 小テスト5回目	講義資料の復習、参考文献の一読
13	社会調査法4：文書分析法、小テストの講評	講義、質疑応答	講義資料の復習、参考文献の一読
定期試験を実施する Final Exam will be held			
14	社会学のまとめ 試験の解説	社会学講義内容のまとめと試験問題の解説	講義資料を受け取っていない学生のために資料を準備

テキスト	特に指定しない。毎回の授業で、穴埋め式の講義内容に関する資料を配布する。
参考書	1. 高根 正昭(1979)『創造の方法学』(講談社現代新書) 2. アンソニー・ギデンズ著、松尾清文ほか訳(2009)『社会学 第5版』(両立書房)
その他 特記事項	授業内で適宜、関連文献を紹介する。講義資料の内容と合わせてより詳しく学習したい場合には、参考書と合わせて、関連文献を一読することをお勧めする。

科目名	LAW211: 日本国憲法 A				担当教員	牧 耕太郎		
開講期	春	開講時限	木 5 限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.19 を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP 及び学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要					学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					2-①	
キーワード	日本国憲法、統治機構、天皇、立法、行政、司法、地方自治、財政、平和主義							
授業の概要	本講義は、日本国憲法のうち、主に統治機構と呼ばれる部分について講じる。統治機構とは、国家の政治を実現するために設置されている様々な機関とその関係を指すが、本講義は日本における統治機構を日本国憲法という法規範を基に講じるものである。 なお、授業は、講師作成のレジュメを中心に行う。							
達成目標 (授業の目的)	本講義では、受講生諸君が、日本の統治機構の構造を理解し、その固有の任務や機関の相互関係について正確に説明ないし描写することができるようになることを目指す。併せて、現実の政治について、自ら憲法的観点からの分析が可能となる。							
到達目標 (学修成果)	まず、日本の統治機構について、誤りなく理解している。その上で、それぞれの機関やその関係について、言語を用いて自らの言葉で説明・描写することができる。そして、現実の政治を学習したことに照らし、法と現実の位置関係を言葉で説明し、かつ問題点を指摘できる。							
評価方法	①授業時の参加態度：30% ②中間試験：30% ③期末試験：40%							
評価基準	①授業時の参加態度：質問に対して必ず解答しているか（正答かどうかは問わない）。 ②中間試験：講義で得た知識が着実に定着しているか。 ③期末試験：問いを正確に理解した上で、これまで得た知識を使って、十分な検討を行い、適切な論述がなされているか。							
準備学修の時間	本科目の一回（100分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均 190 分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	ガイダンス・イントロダクション：憲法とは	講義、質疑応答	日本国憲法の前文を読む。 第 2 回レジュメに取り組む。
2	日本国憲法史 日本国憲法の成り立ちを知る。	講義、質疑応答	テキスト第 1 章を読む。 第 3 回レジュメに取り組む。
3	民主主義と立憲主義 民主主義と立憲主義の概念を理解する。	講義、質疑応答	疑問点を拾い上げて調べる。 第 4 回レジュメに取り組む。
4	統治機構概観 日本の統治機構を俯瞰する。	講義、質疑応答	疑問点を拾い上げて調べる。 第 5 回レジュメに取り組む。
5	立法府と選挙 (1) 国会の役割を知る。	講義、質疑応答	テキスト第 14 章を読む。 第 6 回レジュメに取り組む。
6	立法府と選挙 (2) 日本の選挙制度を知る。	講義、質疑応答	疑問点を拾い上げて調べ、 中間試験に備える。
7	中間試験／行政府 (1) 議院内閣制とは何か。	講義、質疑応答	中間試験の問題を見直す。 第 8 回レジュメに取り組む。
8	中間試験返却・解説／行政府 (2) 内閣の構成員と権限を知る。	講義、質疑応答	テキスト第 15 章を読む。 第 9 回レジュメに取り組む。
9	司法府 (1) 機構としての裁判所を論じる。	講義、質疑応答	テキスト第 16 章を読む。 第 10 回レジュメに取り組む。

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
10	司法府(2) 違憲審査というシステムを理解する。	講義、質疑応答	テキスト第17章を読む。 第11回レジュメに取り組む。
11	地方自治 より小さな単位で行われる立法と行政。	講義、質疑応答	テキスト第18章を読む。 第12回レジュメに取り組む。
12	天皇・皇室 天皇・皇室の法的位置づけを知る。	講義、質疑応答	テキスト第2章を読む。 第13回レジュメに取り組む。
13	平和主義 いわゆる9条と国際平和を考える。	講義、質疑応答	テキスト第3章を読んだ上で、 期末試験に備える。
定期試験を実施する Final Exam will be held			
14	期末試験の解説・講評	講義、質疑応答	テキスト・レジュメを見返す。

テキスト	安西文雄ほか『憲法学読本〔第3版〕』(有斐閣)
参考書	芦部信喜・高橋和之補訂『憲法〔第7版〕』(岩波書店) 長谷部恭男ほか編『憲法判例百選Ⅱ〔第7版〕』(有斐閣)
その他 特記事項	本講義は、質疑応答を基礎として展開する予定であるので、受講生の積極的な授業参加が望まれる。憲法の法文を授業初回に配布するので、必ず出席されたい。



科目名	LAW212: 日本国憲法 B				担当教員	牧 耕太郎		
開講期	秋	開講時限	木5限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					2-①	
キーワード	日本国憲法、人権、憲法上の権利、自由、平等、公共の福祉							
授業の概要	本講義は、日本国憲法のうち、主に人権論と呼ばれる部分について講じる。人権や自由、平等というものは、ある種の誤解を招きやすい概念である。本講義は憲法学における人権の概念を、実際の裁判なども参照しながら講じるものである。 なお、授業は、講師作成のレジュメを中心に行う。							
達成目標(授業の目的)	本講義では、受講生諸君が、人権・自由の概念を理解し、なぜ法的・社会的に重要視されているのかを理解することを目指す。併せて、身の回りの出来事について、自ら憲法的観点からの分析が可能となる。							
到達目標(学修成果)	まず、人権がなぜ重要であるのかを徹底的に理解している。その上で、それぞれの人権の保障根拠を正確に理解できる。さらに、人権の衝突状況などが生じたときに、適切な交通整理をする力を身につけている。							
評価方法	①授業時の参加態度：30% ②中間試験：30% ③期末試験：40%							
評価基準	①授業時の参加態度：質問に対して必ず解答しているか(正答かどうかは問わない)。 ②中間試験：講義で得た知識が着実に定着しているか。 ③期末試験：問いを正確に理解した上で、これまで得た知識を使って、十分な検討を行い、適切な論述がなされているか。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	ガイダンス・イントロダクション：憲法とは	講義、質疑応答	日本国憲法の前文を読む。 第2回レジュメに取り組む。
2	民主主義と立憲主義 民主主義と立憲主義の概念を理解する。	講義、質疑応答	疑問点を拾い上げて調べる。 第3回レジュメに取り組む。
3	人権概念と人権の制約原理 人権概念の生まれを知る。	講義、質疑応答	テキスト第4章を読む。 第4回レジュメに取り組む。
4	人権の享有主体 人権をもつ「人」とは誰なのか?	講義、質疑応答	疑問点を拾い上げて調べる。 第5回レジュメに取り組む。
5	幸福追求権と新しい人権 人権は全部憲法に書いてあるのか?	講義、質疑応答	テキスト第5章を読む。 第6回レジュメに取り組む。
6	平等原則 「平等」の意味を知る。	講義、質疑応答	テキスト第6章を読んだ上で、 中間試験に備える。
7	中間試験／思想良心の自由 「思想」を強制するという意味を知る。	講義、質疑応答	中間試験の誤りを正す。 第8回レジュメに取り組む。
8	中間試験返却・解説／信教の自由 国家と宗教の関係を考える。	講義、質疑応答	テキスト第7章を読む。 第9回レジュメに取り組む。
9	表現の自由(1) 表現の自由はなぜ重要なのかを知る。	講義、質疑応答	テキスト第8章Iを読む。 第10回レジュメに取り組む。

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
10	表現の自由(2) 集会・結社・学問の価値を知る。	講義、質疑応答	テキスト第8章の残りを読む。 第11回レジュメに取り組む。
11	財産権の保障 財産を守るという意味を知る。	講義、質疑応答	テキスト第9章を読む。 第12回レジュメに取り組む。
12	職業選択の自由 職業が人権になる理由を知る。	講義、質疑応答	疑問点を拾い上げて調べる。 第13回レジュメに取り組む。
13	社会権 国家が国民を支える理由を考える。	講義、質疑応答	テキスト第12章を読み、期 末試験に備える。
定期試験を実施する Final Exam will be held			
14	期末試験の解説・講評	講義、質疑応答	テキスト・レジュメを見返 す。

テキスト	安西文雄ほか『憲法学読本〔第3版〕』(有斐閣)
参考書	芦部信喜・高橋和之補訂『憲法〔第7版〕』(岩波書店) 長谷部恭男ほか編『憲法判例百選Ⅰ〔第7版〕』(有斐閣)
その他 特記事項	本講義は、質疑応答を基礎として展開する予定であるので、受講生の積極的な授業参加が望まれる。憲法の法文を授業初回に配布するので、必ず出席されたい。

科目名	LAW201: 法学 A				担当教員	牧 耕太郎		
開講期	春	開講時限	木3限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					2-①	
キーワード	法学、基礎法、法哲学、法制史、比較法、法社会学							
授業の概要	本講義は、法学のうち、特に基礎法と呼ばれる分野を概観する。基礎法とは現実の法の根底をなすものを意味するが、本講義ではその中からいくつかのものをトピック的に取り扱う。したがって、講義全体としては緩やかな流れをもちながらも、体系的にはこだわらないものとなっている。なお、本講義では、講師作成のレジュメを中心に講義を行う。							
達成目標(授業の目的)	現在の法制度の根底に流れている思想や価値判断が身につくことを目指す。また、現在の日本の法制度が唯一・最良のものではないということを理解できるようにする。その上で、未知の問題にぶつかったとき、自らの力で考え、解決策を提示することができるようになることを目標とする。							
到達目標(学修成果)	まず、「法」が他の「ルール」とどう異なるかを理解している。その上で、「法」固有の価値判断がどのようなものかを説明できる。さらに、そのような大局的視野に立って、現在の社会問題について論評することができる。							
評価方法	①授業時の参加態度：30% ②中間レポート(第6回から7回辺りに課題を示す)：30% ③期末レポート：40%							
評価基準	①授業時の参加態度：質問に対して必ず解答しているか(正答かどうかは問わない)。 ②中間レポート：提示された課題に対して多角的に検討をしているか。 ③期末レポート：課題内容を正確に理解した上で、これまで得た知識を使って、十分な検討を行い、適切な論述がなされているか。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	ガイダンス・イントロダクション 法学と基礎法学	講義、質疑応答	疑問点を確認する。 第2回レジュメに取り組む。
2	西洋法と東洋法 法に何を求めるのか	講義、質疑応答	疑問点を拾い上げておく。 第3回レジュメに取り組む。
3	日本法の出自 日本の法は日本人が考えたのか?	講義、質疑応答	疑問点を拾い上げておく。 第4回レジュメに取り組む。
4	いわゆる「神判」と魔女裁判 裁きは誰の手に握られているのか	講義、質疑応答	疑問点を拾い上げておく。 第5回レジュメに取り組む。
5	法とルールの異同 —権利と義務— チェスのルールと法は何が違う?	講義、質疑応答	疑問点を拾い上げておく。 第6回レジュメに取り組む。
6	法と慣習 法律は「書かれている」とは限らない	講義、質疑応答	疑問点を拾い上げておく。 第7回レジュメに取り組む。
7	自然法と法実証主義 法は神が作った?それとも裁判官 etc...?	講義、質疑応答	疑問点を拾い上げておく。 第8回レジュメに取り組む。
8	英米法と大陸法 信頼すべきは大衆?それともエリート?	講義、質疑応答	疑問点を拾い上げておく。 第9回レジュメに取り組む。
9	レポート返却・講評/正義論 「セイギの味方」はどんな人?	講義、質疑応答	疑問点を拾い上げておく。 第10回レジュメに取り組む。

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
10	動物、AI、そして人 アンドロイドは「友達」になれるか	講義、質疑応答	疑問点を拾い上げておく。 第11回レジュメに取り組む。
11	裁判に関わる人 裁判という営みを知る	講義、質疑応答	疑問点を拾い上げておく。 第12回資料を読み込む。
12	いわゆる「隣人訴訟」 昨日の友は今日の敵?	講義、質疑応答	疑問点を拾い上げておく。 テキストを全編通読する。
13	法と文学 夏目漱石『坊っちゃん』に潜む法的思考	講義、質疑応答	これまでの疑問をまとめ、 期末レポートを仕上げる。
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	期末レポートに対する解説・講評	講義、質疑応答	テキストを全編読み直す。

テキスト	夏目漱石『坊っちゃん』(角川文庫)
参考書	三ヶ月章『法学入門』(弘文堂) 木庭顕『誰のために法は生まれた』(朝日出版社)
その他 特記事項	本講義では、質疑応答を基礎として展開する予定であるので、受講生の積極的な授業参加が望まれる。また、テキストは第13回でのみ利用する予定である。

科目名	LAW202: 法学 B				担当教員	牧 耕太郎		
開講期	秋	開講時限	木 3 限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.19 を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP 及び 学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要					学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					2-①	
キーワード	法学、実定法、法解釈学、民法、刑法、行政法、裁判							
授業の概要	本講義は、法学のうち、実定法学（解釈法学）と呼ばれる分野を取り扱う。その中でも、基本的な法分野である、市民関係の権利関係を規律する民法と犯罪と刑罰に関する刑法を中心的に取り扱う（本講義では憲法を扱わないので注意されたい）が、その前提として裁判の仕組みや法についての概論も行う。 なお、本講義では、講師作成のレジュメを中心に講義を行う。							
達成目標 (授業の目的)	まず、現実に運用されている条文を適切に摘示して根拠として示すことができたり、裁判手続きが紛争解決手続きとしてどのような性質をもつものかをも正確に理解することを目指す。それを踏まえて、法律の観点から社会問題を分析・思考し、解決策を提示することができるようになる。							
到達目標 (学修成果)	条文を適切に見つけ、摘示することができる。 裁判という制度・現象について理解し、説明することができる。 日本の基本的な法律の基本的な考え方を正確に理解し、説明することができる。							
評価方法	①授業時の参加態度：30% ②中間試験：30% ③期末試験：40%							
評価基準	①授業時の参加態度：質問に対して必ず解答しているか（正答かどうかは問わない）。 ②中間試験：講義で得た知識が着実に定着しているか。 ③期末試験：問いを正確に理解した上で、これまで得た知識を使って、十分な検討を行い、適切な論述がなされているか。							
準備学修 の時間	本科目の一回（100分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均 190 分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	ガイダンス・イントロダクション 六法の読み方	講義、質疑応答	六法を引く。 第 2 回レジュメに取り組む。
2	法の分類 法律違反はすべてが犯罪なのか？	講義、質疑応答	疑問点を拾い上げておく。 第 3 回レジュメに取り組む。
3	法の解釈 キリンは馬といえるか？	講義、質疑応答	疑問点を拾い上げておく。 第 4 回レジュメに取り組む。
4	裁判手続法 (1) 裁判の当事者と裁判所	講義、質疑応答	疑問点を拾い上げておく。 第 5 回レジュメに取り組む。
5	裁判手続法 (2) 裁判の意味と裁判の流れ	講義、質疑応答	疑問点を拾い上げておく。 第 6 回レジュメに取り組む。
6	民法 (1) 民法総論 民法学習のイロハ	講義、質疑応答	疑問点を拾い上げておく。 第 7 回レジュメに取り組む。
7	民法 (2) 契約 モノを売る・買うということ	講義、質疑応答	疑問点を拾い上げて、中間試験に備える。
8	中間試験／民法 (3) 不法行為 もし事故に遭ったら	講義、質疑応答	中間試験の誤りを正す。 第 9 回レジュメに取り組む。

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
9	中間試験返却・解説／民法(4) 家族法 法は家庭に入らず?	講義、質疑応答	疑問点を拾い上げておく。 第10回レジュメに取り組む。
10	刑法(1) 刑法総論Ⅰ 犯罪の基本的な成立要件	講義、質疑応答	疑問点を拾い上げておく。 第11回レジュメに取り組む。
11	刑法(2) 刑法総論Ⅱ 過失・未遂・共犯	講義、質疑応答	疑問点を拾い上げておく。 第12回レジュメに取り組む。
12	刑法(3) 刑法各論 犯罪の個別的な成立要件	講義、質疑応答	疑問点を拾い上げておく。 第13回レジュメに取り組む。
13	行政法 行政と法の関係	講義、質疑応答	疑問点を拾い上げて、期末試験に備える。
定期試験を実施する Final Exam will be held			
14	期末試験の解説・講評	講義、質疑応答	配布レジュメ等を読み直す。

テキスト	池田真朗ほか『法学六法21』(信山社)
参考書	市川正人ほか『現代の裁判〔第7版〕』
その他 特記事項	本講義では、質疑応答を基礎として展開する予定であるので、受講生の積極的な授業参加が望まれる。なお、初回から六法を引くので、毎回必ず持参すること。

科目名	EDU201: 教育学 A				担当教員	杉村 美佳		
開講期	春	開講時限	火3限	研究室	4220	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					2-①	
キーワード	発達と教育、発達心理、教育の思想、教育の歴史							
授業の概要	人間や社会にとって「教育とは何か」を問い、教育という営みについて心理学的、思想的、歴史的なアプローチから探究することを通して、教育学の基礎理論を学ぶ。具体的には、人間の発達と教育、子ども観と教育観の変遷、教育の歴史等について、今日の教育問題との関連を考察しながら検討する。							
達成目標(授業の目的)	教育という営みについて心理学的、思想的、歴史的視点から探究することを通して、教育学の基礎理論を理解し、教育事象を教育学的視点から論理的、批判的に考察することができるようになることを目的とする。							
到達目標(学修成果)	①教育学の諸分野や基礎理論についての的確に理解し、概要を説明することができる。 ②現代の教育を取り巻く諸問題の背景や現状を理解し、課題を論述することができる。 ③教育事象に関するレポートの作成を通して、教育学の視点から教育事象を論理的、批判的に考察し、その結果を効果的に発表することができる。							
評価方法	①授業参画(10%)、②授業時に課すリアクション・ペーパー(30%)、③授業内試験(30%)、④レポート(30%)							
評価基準	①授業参画：積極的に発言や質問を行っているか。 ②リアクション・ペーパー：論題について授業内容をふまえて論理的に考察できているか。 ③授業内試験：授業内容を理解し、設問に対して正確に答えられているか。 ④レポート：参考文献の内容を理解し、教育学の観点から論理的に論述できているか。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	教育学とは—教育学の諸分野—	講義・ディスカッション リアクションペーパー	テキスト pp.38-41の一読 配布プリントの復習
2	子どもを取り巻く社会の変化 —少子化・情報化・子どもの貧困—	講義・DVD視聴 リアクションペーパー	テキスト pp.45-49の一読 配布プリントの復習
3	人間の発達と教育(1) 幼児期	講義・DVD視聴 リアクションペーパー	テキスト pp.41-45の一読 DVDの内容の要約・考察
4	人間の発達と教育(2) 児童期	講義・ディスカッション リアクションペーパー	テキスト pp.27-31の一読 DVDの内容の要約・考察
5	人間の発達と教育(3) 青年期	講義・ディスカッション リアクションペーパー	テキスト pp.6-12の一読 配布プリントの復習
6	道徳性の発達と教育	講義・ディスカッション リアクションペーパー	テキスト pp.120-125の一読 配布プリントの復習
7	子ども観・教育観の変遷(1) コメニウス・ロック	講義・ディスカッション リアクションペーパー	テキスト pp.77-80の一読 配布プリントの復習
8	子ども観・教育観の変遷(2) ルソー	講義・ディスカッション リアクションペーパー	テキスト pp.81-84の一読 配布プリントの復習
9	子ども観・教育観の変遷(3) デューイ	講義・DVD視聴 リアクションペーパー	テキスト pp.85-87の一読 DVDの内容の要約・考察

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
10	幼児教育の思想―フレーベル・モンテッソーリー―	講義・DVD 視聴 リアクションペーパー	テキスト pp.87-88 の一読 DVD の内容の要約・考察
11	小括・授業内試験	講義・質疑応答・ 授業内試験	10回目までの授業内容の復習
12	教育の歴史(1)―戦争と教育―	講義・ディスカッション リアクションペーパー	テキスト pp.70-72 の一読 配布プリントの復習
13	教育の歴史(2)―学歴主義社会の形成と生涯学習の推進	講義・DVD 視聴 リアクションペーパー	テキスト pp.73-75 の一読 配布プリントの復習
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	総括および試験の返却と解説	講義・ディスカッション リアクションペーパー	配布レジュメの復習

テキスト	内海崎貴子 編著『教職のための教育原理』(八千代出版)
参考書	田嶋一他著『やさしい教育原理』(有斐閣アルマ)



科目名	EDU201: 教育学 A				担当教員	青木 由紀子		
開講期	秋	開講時限	火 2 限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.19 を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP 及び 学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要					学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					2-①	
キーワード	人間と教育、発達と教育、教育の歴史と思想、学校と社会							
授業の概要	人間や社会にとって「教育とは何か」を問い、教育という営みについて心理的、思想的、歴史的なアプローチから探究することを通して、教育学の視点や基礎理論を学ぶ。具体的には、人間の発達と教育、子ども観と教育観の変遷、教育の歴史や思想等について、今日の教育問題との関連を考察しながら検討する。最後に、各自が関心のある教育実践を取り上げ、レポートを作成する。							
達成目標 (授業の目的)	教育学の基礎知識や教育の歴史・思想を学ぶことで、現代の様々な教育事象を、教育的観点から理論的・批判的に考察することができるようになる。教育をめぐる様々な課題に対して問題意識を持ち、それを自らの言葉で表現し、他者の意見に耳を傾け学びながら、深めていくことを目的とする。							
到達目標 (学修成果)	① 授業で学ぶ教育学の諸分野や基礎理論についての的確に理解し、ミニレポートにおいて、概要を説明することができる。そのうえで、自ら問題意識を持ち、それを継続して深めていくことができるようにする。 ② 教育の基礎理論、歴史、思想について、基礎的な事項や流れを理解し、説明することができる。 ③ 教育実践に関する期末レポートの作成を通して、問いを設定し、教育学的視点から教育事象を論理的、批判的に考察し、自分の言葉で論述することができる。							
評価方法	①授業時に課すミニ・レポート (40%)、②授業内試験 (25%)、③期末レポート (35%)							
評価基準	① ミニ・レポート：授業内容を自分の言葉で要約し、論題について論理的に考察し、自分の問題意識を深めているか。 ② 授業内試験：授業の知識内容を理解し、設問に対して正確に答えられているか。 ③ 期末レポート：自ら問題設定をし、参考文献の内容を生かしながら、教育学的観点から論理的に論述できているか。							
準備学修 の時間	本科目の一回 (100 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 190 分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	本講義の目的と概要、アカデミックスキルズ、問いの立て方、深め方について	講義、ディスカッション、ミニレポート	ノート・配布プリントの復習
2	よい教育とは何か	講義、ディスカッション、ミニレポート	第1章の一読 ノート・配布プリントの復習
3	教育と発達	講義、ディスカッション、ミニレポート	第3章2節の一読 ノート・配布プリントの復習
4	教育と社会	講義、ディスカッション、ミニレポート	第2章の一読 ノート・配布プリントの復習
5	子ども観・教育観の変遷	講義、ディスカッション、ミニレポート	第3章の一読 ノート・配布プリントの復習
6	教育方法の歴史	講義、ディスカッション、ミニレポート	第4章の一読 ノート・配布プリントの復習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
7	近代日本の教育史	講義、ディスカッション、ミニレポート	配布資料の一読 ノート・配布プリントの復習
8	教育を受ける権利	講義、ディスカッション、ミニレポート	第5章の一読 ノート・配布プリントの復習
9	子どもの学びを支える仕組み	講義、ディスカッション、ミニレポート	第6章の一読 ノート・配布プリントの復習
10	教師論	講義、ディスカッション、ミニレポート	第9章の一読 ノート・配布プリントの復習
11	小括・授業内試験	講義、質疑応答、授業内試験	試験の準備 ノート・配布プリントの復習
12	学力観の変遷と教育改革	講義、グループディスカッション、発表	第8章の一読 ノート・配布プリントの復習
13	子どものための学校とは	講義、グループディスカッション、発表	第7章の一読 ノート・配布プリントの復習
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	総括および試験の返却と解説	講義・質疑応答・ディスカッション	ノート・配布プリントの復習

テキスト	勝野 正章、庄井 良信 著『問いからはじめる教育学』(有斐閣)
参考書	田嶋一他著『やさしい教育原理 第3版』(有斐閣) 木村 元、小玉 重夫、船橋 一男 著『教育学をつかむ 改訂版』(有斐閣)

科目名	EDU202: 教育学 B				担当教員	杉村 美佳		
開講期	春	開講時限	金 3 限	研究室	4220	オフィスアワー	P.19 を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2 年	連絡先		
DP 及び学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要					学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					2-①	
キーワード	教育社会学、学力格差、いじめ、不登校、教育改革、グローバル化と教育							
授業の概要	人間や社会にとって「教育とは何か」を問い、教育という営みについて社会学的、国際的アプローチから探究することを通して、教育学の基礎理論を学ぶ。具体的には、学力格差、いじめや不登校、外国籍児童の教育など、現代の学校教育を取り巻く諸問題を取り上げ、その要因や社会的背景、課題解決の方途を探る。最後に各自が関心のある教育事象を取り上げてレジュメを作成し、プレゼンテーションを行う。							
達成目標(授業の目的)	教育という営みについて社会学的、国際的視点から探究することを通して、教育学の基礎理論を理解し、教育事象を教育学的視点から論理的、批判的に考察することができるようになることを目的とする。							
到達目標(学修成果)	①教育学の諸分野や基礎理論についての確に理解し、概要を説明することができる。 ②現代の教育を取り巻く諸問題の背景や現状を理解し、課題を論述することができる。 ③教育事象に関するレジュメの作成やプレゼンテーションを通して、教育学の視点から教育事象を論理的、批判的に考察し、その結果を効果的に発表することができる。							
評価方法	①授業時に課すリアクション・ペーパー (30%)、②授業内試験 (30%)、 ③レジュメ (30%)、④プレゼンテーション (10%)							
評価基準	①リアクション・ペーパー：論題について授業内容をふまえて論理的に考察できているか。 ②授業内試験：授業内容を理解し、設問に対して正確に答えられているか。 ③レジュメ：参考文献の内容を理解し、教育学の観点から論理的に論述できているか。 ④プレゼンテーション：パワーポイントなど発表を効果的にする資料を準備し、わかりやすく伝える工夫をしているかによって評価をする。							
準備学修の時間	本科目の一回 (100 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 190 分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	教育学とは—教育学の諸分野—	講義・ディスカッション リアクションペーパー	テキスト pp.38-41 の一読 配布プリントの復習
2	子どもを取り巻く社会の変化 —少子化・情報化・子どもの貧困—	講義・ディスカッション リアクションペーパー	テキスト pp.45-49 の一読 配布プリントの復習
3	学校教育の今日的課題 (1) 学力格差	講義・ディスカッション リアクションペーパー	テキスト pp.27-28 の一読 配布プリントの復習
4	学校教育の今日的課題 (2) いじめ	講義・DVD 視聴 リアクションペーパー	テキスト pp.28-30 の一読 配布プリントの復習
5	学校教育の今日的課題 (3) 不登校・学級崩壊	講義・DVD 視聴 リアクションペーパー	テキスト pp.30-31 の一読 配布プリントの復習
6	学校教育の今日的課題 (4) 特別支援教育	講義・ディスカッション リアクションペーパー	テキスト pp.154-158 の一読 配布プリントの復習
7	グローバル化と教育 (1) 外国につながる子どもと国際理解教育	講義・ディスカッション リアクションペーパー	テキスト pp.18-20 の一読 配布プリントの復習
8	グローバル化と教育 (2) 小学校の英語教育	講義・ディスカッション リアクションペーパー	日本の英語教育改革を調べる 配布プリントの復習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
9	グローバル化と教育(3) シティズンシップ教育	講義・DVD 視聴 リアクションペーパー	日本の市民教育を調べる 配布プリントの復習
10	小括・授業内試験	講義・質疑応答・ 授業内試験	9回目までの授業内容の復習
11	カリキュラム論—学習指導要領の変遷—	講義・DVD 視聴 リアクションペーパー	テキスト pp.52-57 の一読 配布プリントの復習
12	教育方法論—教育方法の日米比較—	プレゼンテーション・ 討議・解説	プレゼンテーションの準備 配布レジュメの復習
13	諸外国の教育制度	プレゼンテーション・ 討議・解説	プレゼンテーションの準備 配布レジュメの復習
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	欧米の自由教育、試験の返却と解説	プレゼンテーション・ 討議・解説	プレゼンテーションの準備 配布レジュメの復習

テキスト	内海崎貴子 編著『教職のための教育原理』(八千代出版)
参考書	田嶋一他著『やさしい教育原理』(有斐閣アルマ)

科目名	EDU202: 教育学 B				担当教員	青木 由紀子		
開講期	秋	開講時限	火3限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					2-①	
キーワード	現代の教育的課題、教育改革、子どもと社会、共生と教育、グローバル化							
授業の概要	人間と社会にとって「教育とは何か」を問い、今日の様々な教育的課題を、子ども、家庭、学校、社会、国家等の関わりに着目して学びながら、教育学の視点や基礎理論を学ぶ。具体的には、今日の教育改革の動向や、学力格差・いじめや不登校などの問題、共生と教育をめぐる課題など取り上げ、それに対する教育学の応答を探る。最後に各自が関心のある教育事象を取り上げてレジュメを作成し、プレゼンテーションを行う。							
達成目標(授業の目的)	現代の様々な教育事象について、子どもと社会、また教育に関わる場や主体との関わりを通して、教育的観点から理論的・批判的に考察することができるようになる。教育をめぐる様々な課題に対して問題意識を持ち、それを自らの言葉で表現し、他者の意見に耳を傾け学びながら、深めていくことを目的とする。							
到達目標(学修成果)	① 授業で学ぶ教育をめぐる課題や基礎理論についての的確に理解し、ミニレポートにおいて、概要を説明することができる。その上で、自ら問題意識を持ち、それを継続して深めていくことができるようにする。 ② 様々な教育的課題をめぐる歴史や背景、重要な理論や概念、さらに現在の論点等を理解し、説明することができる。 ③ 教育事象に関するプレゼンテーションを通して、問いを設定し、教育的視点から論理的、批判的に考察し、自分の言葉でまとめ、発表することができる。							
評価方法	①授業時に課すミニ・レポート(40%)、②授業内試験(25%)、③レジュメ作成とプレゼンテーション(35%)							
評価基準	① ミニ・レポート：論題について授業内容を踏まえ、論理的に考察し、自分のことばでまとめているか。 ② 授業内試験：授業で学んだ知識内容を理解し、設問に対して正確に答えられているか。 ③ レジュメ作成とプレゼンテーション：問題を設定し、それに即して課題を検討し、分かりやすく他者に伝える工夫をしているか。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	教育学を学ぶ見取り図、教育をめぐる問いの立て方、深め方について	講義、グループワーク、発表	ノート・配布プリントの復習
2	学校の再考 — より良い学校と教育の構想—	講義、ディスカッション、ミニレポート	第7章の一読 ノート・配布プリントの復習
3	学力観の変遷と教育改革	講義、ディスカッション、ミニレポート	第8章1節の一読 ノート・配布プリントの復習
4	自己—他者—社会との関わりにおける生き方とアイデンティティ 道徳教育、シティズンシップ教育	講義、ディスカッション、ミニレポート	第8章3節の一読 ノート・配布プリントの復習
5	子どもをめぐる社会問題 — 情報化、教育の機会平等と格差、子どもの貧困—	講義、ディスカッション、ミニレポート	第2章4節、第8章の一読 ノート・配布プリントの復習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
6	子どもを支える関わり 家庭、教師、地域社会、社会的養護 ―いじめ、不登校等の事例を参照して―	講義、ディスカッション、ミニレポート	第9,10章の一読 ノート・配布プリントの復習
7	学びを支える多様な場 ―教育の接続と生涯学習―	講義、ディスカッション、ミニレポート	第12章の一読 ノート・配布プリントの復習
8	共生と教育① 特別支援教育	講義、ディスカッション、ミニレポート	第5章2節、第10章2節の一読、ノート・配布プリントの復習
9	共生と教育② 異文化教育と外国につながる子ども	講義、ディスカッション、ミニレポート	第5章3節の一読 ノート・配布プリントの復習
10	小括・授業内試験	講義、質疑応答、授業内試験	ノート・配布プリントの復習 試験の準備
11	学校を問う	プレゼンテーション、ディスカッション、フィードバック	プレゼンテーションの準備 フィードバックを読む
12	現代の子どもの生きる社会と教育を問う	プレゼンテーション、ディスカッション、フィードバック	プレゼンテーションの準備 フィードバックを読む
13	多様性と共生のための教育を問う	プレゼンテーション、ディスカッション、フィードバック	プレゼンテーションの準備 フィードバックを読む
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	総括および試験の返却と解説 教育・教育学をさらに深く学んでいくために	講義、前回までのプレゼンテーションで出された問いを元にディスカッション	フィードバックを読む ノート・配布プリントの復習

テキスト	勝野 正章、庄井 良信 著『問いからはじめる教育学』(有斐閣)
参考書	沼田裕之、増淵幸男『教育学 21の問い』(福村出版) 木村 元、小玉 重夫、船橋 一男 著『教育学をつかむ 改訂版』(有斐閣)

科目名	ECN201: 経済学 A				担当教員	白瀬 宗範		
開講期	春	開講時限	木1限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					2-①	
キーワード	経済学、価格理論、ミクロ経済学							
授業の概要	経済学の基礎を学びます。主に価格理論、ミクロ経済学を概観し、その理解に必要な数学も学習します。新聞記事なども利用し、理論だけでなく、現実の経済問題への応用も取り入れます。数学や計算の小テストを数多く取り入れます。							
達成目標(授業の目的)	経済事象を論理的に理解し、他者に説明することができる。新聞やニュースなどで取り上げられる経済事象を価格理論、ミクロ経済学の基礎理論を用いて理解し、説明する。							
到達目標(学修成果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済学の基礎理論及びそのための基礎的数学を理解する。</li> <li>・現実の経済問題を経済学の理論で理解できる。</li> <li>・日々の経済事象に興味を持ち、経済学の理論で説明できる。</li> </ul>							
評価方法	授業内の各テストの合計 70% (すべての中間テストと小テストの合計得点を、満点が 70 ポイントとして換算)、授業参加 30%。							
評価基準	総合テスト及び小テスト：設問に対し経済学の理論を使って説明できているか。 授業参加：単なる出席ではなく、適宜提出するリアクションペーパーの内容が授業の的確な理解を踏まえたものであるかどうか、及び、質疑応答やディスカッションに積極的に参加しているかどうかを評価の対象とする。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均 190 分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	ガイダンス、学び方、参考書紹介	講義、質疑応答	次回範囲の予習
2	経済学のための計算・数学①	講義、演習	練習問題あり
3	ミクロ経済学/価格理論①需要と価格	講義、質疑応答	授業内容をテキストで予習・復習(第1章)
4	ミクロ経済学/価格理論②供給と価格	講義、質疑応答	授業内容をテキストで予習・復習(第2章)
5	ミクロ経済学/価格理論③各曲線のシフト	講義、質疑応答	授業内容をテキストで予習・復習(2,3章)
6	ミクロ経済学/価格理論④価格の決定	講義、質疑応答	授業内容をテキストで予習・復習(2,3章)
7	ミクロ経済学/価格理論⑤応用	講義、質疑応答	授業内容をテキストで予習・復習(2,3章)
8	これまでの復習と中間テスト	講義、テスト演習	小テストの回答をテキストで確認
9	経済学のための計算・数学②/①の小テスト	講義、テスト演習	小テストの確認と練習問題
10	ミクロ経済学/弾力性①弾力性とは	講義、質疑応答	授業内容をテキストで予習・復習(第3章)

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
11	ミクロ経済学/弾力性②需給曲線と弾力性	講義、質疑応答	授業内容をテキストで予習・復習(第3章)
12	ミクロ経済学/市場の失敗と政府の役割	講義、質疑応答	授業内容をテキストで復習・予習(第5章)
13	総合テスト(経済学及び数学)とこれまでの復習	講義、テスト演習	理解度の確認
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	試験の返却と解説、学習した内容の確認	講義、ディスカッション	ディスカッションの準備

テキスト	岩田規久男『経済学への招待』(新世社)
参考書	岩田規久男『経済学を学ぶ』(ちくま新書)



科目名	ECN202: 経済学 B				担当教員	白瀬 宗範		
開講期	秋	開講時限	木1限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					2-①	
キーワード	経済学、マクロ経済学、経済政策							
授業の概要	経済学の基礎を学びます。主にマクロ経済学、経済政策といった各分野を概観し、その理解に必要な数学も学習します。新聞記事なども利用し、理論だけでなく、現実の経済問題への応用も取り入れます。数学や計算の小テストを数多く取り入れます。							
達成目標(授業の目的)	経済事象を論理的に理解し、他者に説明することができる。新聞やニュースなどで取り上げられる経済事象をマクロ経済学、経済政策の基礎理論を用いて理解し、説明する。							
到達目標(学修成果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済学の基礎理論及びそのための基礎的数学を理解する。</li> <li>・現実の経済問題を経済学の理論で理解できる。</li> <li>・日々の経済事象に興味を持ち、経済学の理論で説明できる。</li> </ul>							
評価方法	授業内の各テストの合計 70% (すべての中間テストと小テストの合計得点を、満点が 70 ポイントとして換算)、授業参加 30%。							
評価基準	総合テスト及び小テスト：設問に対し経済学の理論を使って説明できているか。 授業参加：単なる出席ではなく、適宜提出するリアクションペーパーの内容が授業の的確な理解を踏まえたものであるかどうか、及び、質疑応答やディスカッションに積極的に参加しているかどうかを評価の対象とする。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均 190 分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	ガイダンス、学び方、参考書紹介	講義、質疑応答	次回範囲の予習
2	経済学のための計算・数学①	講義、演習	練習問題あり
3	マクロ経済学①GDP 入門	講義、質疑応答	授業内容をテキストで予習・復習(第6章)
4	ケーススタディ/GDP 入門	ビデオ視聴と質疑応答	テーマを各自整理、関連新聞記事など調べる
5	マクロ経済学②GDP の構成	講義、質疑応答	授業内容をテキストで予習・復習(第6章)
6	ケーススタディ/GDP の構成	ビデオ視聴と質疑応答	テーマを各自整理、関連新聞記事など調べる
7	経済学のための計算・数学②/①の小テスト	講義、テスト演習	小テストの確認と練習問題
8	マクロ経済学③財政政策・金融政策	講義、質疑応答	授業内容をテキストで予習・復習(第7章)
9	ケーススタディ/財政政策・金融政策	ビデオ視聴と質疑応答	テーマを各自整理、関連新聞記事など調べる
10	マクロ経済学④各国の政策、為替レート	講義、質疑応答	授業内容をテキストで予習・復習(第7章)

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
11	ケーススタディ/各国の政策、為替レート	ビデオ視聴と質疑応答	テーマを各自整理、関連新聞記事など調べる
12	経済学のための計算・数学③/②の小テスト	講義、テスト演習	小テストの確認と練習問題
13	総合テスト(経済学及び数学)とこれまでの復習	講義、テスト演習	理解度の確認
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	試験の返却と解説、学習した内容の確認	講義、ディスカッション	ディスカッションの準備

テキスト	岩田規久男『経済学への招待』(新世社)
参考書	岩田規久男『経済学を学ぶ』(ちくま新書)

科目名	BUS201: 経営学 A				担当教員	白瀬 宗範		
開講期	春	開講時限	木2限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					2-①	
キーワード	経営学、戦略論、組織論、マーケティング							
授業の概要	経営学の基礎を学びます。企業理論の基礎から始まり、広範な経営学の理論を体系的に概観します。理論だけでなくケーススタディも重視し、映像や新聞記事などの各種コンテンツも活用します。経済学同様、数字やデータの取り扱いも重要であるため、経営学のための数学、統計学の基礎も学習する予定です。							
達成目標(授業の目的)	経営学の基礎理論を学習することで、企業活動を理論的に理解する。企業に関する諸事象を戦略論、組織論、マーケティングの基礎理論を用いて理解し、他者に説明できるようになる。							
到達目標(学修成果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>経営学各分野の基礎理論及びそのための数学的基礎を理解する。</li> <li>企業活動をケーススタディとして、理解を深める。</li> <li>社会における企業の役割に興味を持ち、自分なりの企業観を育てる。</li> </ul>							
評価方法	授業内テスト 70% (すべての中間テストと小テストの合計得点を、満点が 70 ポイントとして換算)、授業参加 30%。							
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業内テスト：設問に対し経営学の理論を使って説明できているか。</li> <li>授業参加：単なる出席ではなく、適宜提出するリアクションペーパーの内容が授業の的確な理解を踏まえたものであるかどうか、及び、質疑応答やディスカッションに積極的に参加しているかどうかを評価の対象とする。</li> </ul>							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	ガイダンス、学び方、参考書紹介	講義、問題演習	次回範囲の予習
2	経営学のための数学①	講義、問題演習	練習問題あり
3	経営学の基礎/株式会社とは	講義、質疑応答	プリントによる理解の確認
4	経営戦略論①ビジョンとは	講義、質疑応答	プリントやノートで授業内容を予習・復習
5	経営戦略論②戦略とストーリー	講義、質疑応答	プリントやノートで授業内容を予習・復習
6	経営学のための数学②	講義、問題演習、小テスト	練習問題あり
7	マーケティング①ターゲティング	講義、質疑応答	プリントやノートで授業内容を予習・復習
8	マーケティング②マーケティング手法	講義、質疑応答	プリントやノートで授業内容を予習・復習
9	経営学のための数学③	講義、問題演習、小テスト	練習問題あり
10	経営組織論①モチベーション	講義、質疑応答	プリントやノートで授業内容を予習・復習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
11	経営組織論②リーダーシップ	講義、質疑応答	プリントやノートで授業内容を予習・復習
12	経営学のための数学④	講義、問題演習、小テスト	練習問題あり
13	これまでの復習と総合テスト	講義、問題演習、テスト	模範解答と照合、解説
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	テストの返却と学習した内容全般の質疑応答	講義、質疑応答	各自の理解確認

テキスト	榊原清則『経営学入門(上)』(日経文庫)
参考書	榊原清則『経営学入門(下)』(日経文庫)

科目名	BUS202: 経営学 B				担当教員	白瀬 宗範		
開講期	秋	開講時限	木2限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					2-①	
キーワード	経営学、簿記・会計学、財務諸表、財務分析							
授業の概要	経営学の重要な分野である会計学の基礎を学びます。特に財務諸表の作成過程の理解に主眼を置きます。数字やデータの取り扱いも重要であるため、数学、統計学の基礎も学習します。							
達成目標(授業の目的)	会計学の基礎理論を学習することで、会計データにより企業活動を理解できることが望ましい。決算資料などの内容を理解し、他者に説明できるようになる。							
到達目標(学修成果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営学・会計学の基礎理論及びそのための数学的基礎を理解する。</li> <li>・企業活動をケーススタディとして、理解を深める。</li> <li>・社会における企業の役割に興味を持ち、自分なりの企業観を育てる。</li> </ul>							
評価方法	授業内テスト 70% (すべての中間テストと小テストの合計得点を、満点が 70 ポイントとして換算)、授業参加 30%。							
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内テスト：設問に対し経営学の理論を使って説明できているか。</li> <li>・授業参加：単なる出席ではなく、適宜提出するリアクションペーパーの内容が授業の的確な理解を踏まえたものであるかどうか、及び、質疑応答やディスカッションに積極的に参加しているかどうかを評価の対象とする。</li> </ul>							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	ガイダンス、学び方、参考書紹介	講義、問題演習	次回範囲の予習
2	経営学のための数学①	講義、問題演習	練習問題あり
3	経営学の基礎/株式会社とは	講義、質疑応答	プリントによる理解の確認
4	会計学①簿記会計入門	講義、質疑応答	プリントやノートで授業内容を予習・復習
5	会計学②損益計算書	講義、質疑応答	プリントやノートで授業内容を予習・復習
6	経営学のための数学②	講義、問題演習、小テスト	練習問題あり
7	会計学③貸借対照表	講義、質疑応答	プリントやノートで授業内容を予習・復習
8	会計学④練習問題による演習	講義、質疑応答	プリントやノートで授業内容を予習・復習
9	経営学のための数学③	講義、問題演習、小テスト	練習問題あり
10	財務分析①財務分析入門	講義、質疑応答	プリントやノートで授業内容を予習・復習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
11	財務分析②決算資料の理解	講義、質疑応答	プリントやノートで授業内容を予習・復習
12	経営学のための数学④	講義、問題演習、小テスト	練習問題あり
13	これまでの復習と総合テスト	講義、問題演習、テスト	模範解答と照合、解説
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	テストの返却と学習した内容全般の質疑応答	講義、質疑応答	各自の理解確認

テキスト	特に指定しません。適宜プリント(経営学各分野の基礎、関連記事、ケーススタディ等に関する資料)を配布します。
参考書	榊原清則『経営学入門(上)』(日経文庫)

科目名	SWF201: 社会福祉入門 A				担当教員	栃本 一三郎		
開講期	秋	開講時限	火3限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					2-①	
キーワード	社会問題 社会政策 多様な解決策							
授業の概要	我が国の社会保障や社会福祉の問題を社会政策という観点から理解していく。また高齢者や児童の抱える問題についてどのような多様な解決策が考えられるかを、マクロ(国)、メゾ(地域や事業主体)、ミクロ(サービスや援助)のそれぞれのレベルから説明を行う。							
達成目標(授業の目的)	一般に理解されているような、また社会福祉を専門としている学生の理解する社会福祉よりもより幅広い視点を持って福祉や生活を考えることができるようにする。住宅も雇用も教育も、そして企業や地域社会もともに人々の福祉にとって深い関係があることを理解する。							
到達目標(学修成果)	社会福祉入門として、社会福祉を専門としない学生であっても、たとえば、新聞やテレビを見る際に、社会問題にかかわる記事やニュースを、社会政策の観点から、より深く、正確に理解できるようになる。							
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポートとリアクションペーパー (50点)</li> <li>授業への積極的参加 (50点)</li> </ul>							
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポートとリアクションペーパー: テキストや掲示板のファイル、及び、授業の内容を的確に理解し、要約できているかどうか。また、社会の問題を社会政策の視点と立場を踏まえて考えることができ、自分の意見を論理的に記述できるかどうか。</li> <li>授業内の質疑応答、議論に積極的に参加しているかどうか。(特に、教員からの質問や意見について求められた際に、応えることができる)</li> </ul>							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	社会福祉とは何か	授業の中で質疑応答 リアクションペーパー	教科書を読んでおく。
2	社会福祉の一般的理解と社会政策について	授業の中で質疑応答	教科書を読んでおく。レポート①を出す。
3	ウェルビーイングとウェルフェアの違いについて考えてみる	授業の中で質疑応答	教科書を読んでおく。レポート②を出す。
4	諸外国における障害者福祉と高齢者福祉1	教員の出たNHKの番組を見て、議論を行う	内容を要約し何を理解したかについてレポート③を出す。
5	諸外国における高齢者福祉(認知症と身体)	教員の出たNHKの番組を見て、議論を行う	内容を要約し何を理解したかについてレポート④を出す。
6	日本における高齢者福祉について	授業の中で質疑応答 リアクションペーパー	教科書を読んでおく
7	日本における高齢者福祉が実際に地域でどのように行われているのか	授業の中で質疑応答 リアクションペーパー	前もって、考えてくる。

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
8	日本の社会保障と世界の社会保障の比較 一般会計歳出予算と歳入予算、そして社会保障給付費について	授業での質疑。および財務省のデータ等を見ながら世界との違いを見ていくことと、基本的なデータについて繰り返し確認を授業中に行う	教科書と掲示板のファイルを読んでおく。
9	福祉資本主義の類型論について ティットマスとエスピンアンデルセン	板書を使った授業 リアクションペーパー	教科書と掲示板のファイルを読んでおく。
10	日本の社会政策上の問題点を考える 税と社会保障と低所得者への配慮のある・なしについて	授業における質疑。 リアクションペーパー	掲示板のファイルを読んでおく。また復習する。
11	メゾ、ミクロのレベルの福祉の問題	NHKのドラマを見ての議論	ドラマから何を考えたかを復習で考える。
12	ニュースからみる日本の介護問題	NHKの出演番組を見て、皆で何が問題かを考える。	どのような取り組みがあるのかを調べてみる。
13	社会保障と政治	NHKの『日曜討論』を見て、内容を吟味する。	レポート⑤の提出
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	まとめ：これからの日本の社会と我々が取り組むべき事柄について	授業でのディスカッション	レポート⑥の提出
テキスト	栃本一三郎編『新しい視点で学ぶ 社会福祉』(光生館)		
参考書	岩田正美・上野谷加代子・藤村正之『ウェルビーイング・タウン 社会福祉入門改訂版』(有斐閣アルマ)		



科目名	SWF202: 社会福祉入門 B				担当教員	寺田 誠		
開講期	秋	開講時限	金 2 限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.19 を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP 及び 学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要					学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					2-①	
キーワード	社会福祉の広がりや深さ、社会政策、主体としての社会福祉、客体としての社会福祉							
授業の概要	この社会福祉入門 B では、社会福祉についての基礎的理解のために入門的な授業を行います。テキストに沿って基本的な概念や枠組みを理解していくことが中心となりますが、正確で確実な知識 (の取得法)、大手企業や大学進学、留学を目指す学生にとっても必須の知識としての社会福祉、女性にとっても知っておくべき社会保障や社会福祉の知識を教授します。							
達成目標 (授業の目的)	従来の社会福祉教育で行われてきた狭義の社会福祉ではなく、①社会保障も視野においた広義の社会福祉について現状、制度、法律について基礎的知識を得るとともに、②自分の言葉でも説明できるようになる。③さらに新聞で取り上げられる内外の社会福祉や社会保障、社会問題の記事についてある程度専門的視点から読み解くことができるようになる。							
到達目標 (学修成果)	授業および教科書に書かれている事柄を自分で調べ、理解し、さらに他者に説明できるようになる。また自分で考え、世間の理解とは異なる深い読み方が出来るようになる。学問としての社会福祉という視点を得られるようになる。							
評価方法	①毎週の新聞の切り抜きとコメント (20%)、②授業時の積極参加 (15%)、③授業毎のリアクションペーパー (15%)、④期末課題 (2,500 字以上レポート) (50%)							
評価基準	評価方法の割合に応じた合計点によって成績評価を行う。①国内外の社会福祉や社会保障、社会問題の新聞記事を切り抜いて提出かつコメント (200 字以上) を付ける。提出回数とコメントの妥当性によって 4 段階評価。②漫然と授業を受けるのではなく予習・復習がなされているか、質疑応答やディスカッションを行いつつ評価する。③自分なりにその日 (回) の学習内容やキーワードは何だったかを確認しながら記述。コメントの内容によって理解度を見て評価。疑問点は次の授業で解説する。④配付資料や紹介した文献をもとに自分が関心を寄せるテーマについて、講義やディスカッションで得た視点やアプローチを使いながら自分の考えをきちんと論じることができるかを判断し評価。							
準備学修 の時間	本科目の一回 (100 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 190 分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	イントロダクションー講義の進め方、テキストの読み方	講義、ディスカッション リアクションペーパー	テキスト序章を予習
2	社会福祉とは何か①ー社会福祉と社会保障、社会福祉の基礎概念	講義、新聞切抜き提出 (以下「新聞」)	テキスト第 1 章第 1 節を予習、配付資料の復習
3	社会福祉とは何か②ー日本における社会福祉の内容と展開、歴史的連続性	講義、 リアクションペーパー、新聞	テキスト第 1 章第 2 節を予習、配付資料の復習
4	社会福祉とは何か③ーソーシャルポリシー、ニーズの種類、社会福祉の資源	講義、ディスカッション リアクションペーパー、新聞	テキスト第 1 章第 3-4 節を予習、配付資料の復習
5	社会福祉とは何か④ー現金給付と現物給付、普遍主義と選別主義、シチズンシップ	講義 リアクションペーパー、新聞	テキスト第 1 章第 4 節を予習、配付資料の復習
6	社会福祉の動向①ー少子高齢社会、人口減少社会、これからの人口推計	講義 リアクションペーパー、新聞	テキスト第 2 章第 1 節を予習、配付資料の復習
7	社会福祉の動向②ー在宅福祉、地域福祉、地域包括ケアシステム、NPO	講義 リアクションペーパー、新聞	テキスト第 2 章第 2-3 節を予習、配付資料の復習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
8	社会福祉の動向③―社会福祉8法改正、社会福祉の基礎構造改革、	講義、ディスカッション リアクションペーパー、新聞	テキスト第2章第4-5節を予習、配付資料の復習
9	社会福祉の法と行財政①―社会福祉の法制度、社会保障、社会福祉6法	講義 リアクションペーパー、新聞	テキスト第3章第1節を予習、配付資料の復習
10	社会福祉の法と行財政②―社会保障給付費、国民負担率、税と社会保障	講義、ディスカッション リアクションペーパー、新聞	テキスト第3章第2節を予習、配付資料の復習
11	社会福祉の供給体制①―政府部門、民間非営利部門、民間営利部門、インフォーマル部門	講義 リアクションペーパー、新聞	テキスト第4章第1-2節を予習、配付資料の復習
12	社会福祉の供給体制②―供給体制の変遷と今後、公私関係、政府間関係	講義、ディスカッション リアクションペーパー、新聞	テキスト第4章第3-4節を予習、配付資料の復習
13	利用者の視点からみたサービスの利用支援―事業者の情報、第三者評価、権利擁護	講義 リアクションペーパー、新聞	テキスト第7章を予習、配付資料の復習
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	まとめ―新しい視点とは何か 期末課題提出	講義、ディスカッション リアクションペーパー、新聞	テキスト序章を今一度復習

テキスト	栃本一三郎編(2006)『新しい視点で学ぶ社会福祉―保育士を志す人のために』(光生館)
参考書	岩田正美・上野谷加代子・藤村正之(2013)『ウェルビーイング・タウン 社会福祉入門改訂版』(有斐閣アルマ)

科目名	JRN202: マスメディア論 A				担当教員	アルン・デソーザ		
開講期	春/秋	開講時限	月 4 限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.19 を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP 及び 学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要					学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					2-①	
キーワード	ジャーナリズム・メディア歴史と理論、メディアの現状、ニューメディア							
授業の概要	欧米から始まるマス・メディアとジャーナリズムの歴史と理論を基に、マス・メディアに関する研究がどのように成立してきたか、基礎的な概説を行う。その上で、現代社会におけるマス・コミュニケーション機関、マス・メディアの現状についてその役割と影響を中心に概観していく。							
達成目標 (授業の目的)	メディアの歴史・理論・現状と社会との関係性を理解し、現代社会を取り巻く諸問題について、批判的に考えることができるようになる。							
到達目標 (学修成果)	本科目を通じて、メディアの歴史や理論を理解することで、マス・メディアが私たちに提供する情報やニュースに関する正確な理解の仕方、批判的思考を身に付ける。							
評価方法	▶出席・Reaction Paper (30%)、▶Reflection Paper (20%) ▶授業参加 (25%)、▶期末レポート (25%)							
評価基準	▶Reaction Paper：指定テーマについて、講義内容を踏まえて自分の意見を述べられているか。 ▶Reflection Paper：ワークショップの内容に関してまとめるとともに、自分の考えを深められているか。 ▶授業参加：Discussion やワークショップ等において、メディアに関する指定テーマについて積極的に議論しているか。また、それらを発展させながら、学術的に発表できているか。 ▶期末レポート：ジャーナリズム・メディアを題材にしたテーマは、論理的かつ独創的に述べられているか。							
準備学修 の時間	本科目の一回 (100 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 190 分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	Introduction：ジャーナリズム・メディア・コミュニケーション	講義、Reaction Paper	第 1 回授業内容の復習
2	メディアの歴史①：欧州圏	講義、Discussion	第 2 回授業内容の復習 Reaction Paper への準備
3	メディアの歴史②：米圏	講義、Discussion Reaction Paper	第 1 回～3 回授業内容の復習
4	メディアの歴史③：日本—近代	講義、Discussion	第 4 回授業内容の復習
5	メディアの歴史④：日本—現在	講義、Discussion Reaction Paper	メディアの歴史の復習 メディア理論の予習
6	メディア理論①：メディア効果論	講義、Discussion	第 6 回授業内容の復習 ワークショップ①への準備
7	メディア理論②：メディア研究、Cultural Studies	講義、 Reaction Paper	メディア理論の復習 Reflection Paper の準備
8	ワークショップ①：歴史と理論	Discussion Reflection Paper	メディアの現状への導入
9	メディアの現状①：出版、放送	講義、チーム発表 Reaction Paper	第 9 回授業内容の復習 期末レポートへの準備

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
10	メディアの現状②：インターネット、SNS、ニューメディア	講義、チーム発表 Discussion	第10回授業内容の復習
11	メディアの現状③：国際コミュニケーション	講義、チーム発表 Reaction Paper	第11回授業内容の復習 ワークショップ②への準備
12	メディアの現状④：調査報道	講義、チーム発表 Reaction Paper	第12回授業内容の復習 ワークショップ②への準備
13	メディアの現状⑤：メディアの役割と責任	講義、Discussion	メディアの現状の復習 Reflection Paperの準備
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	ワークショップ②：まとめ、総括、期末レポート提出	Discussion Reflection Paper	ふり返しアンケート調査 全体のふり返しとまとめ

テキスト	特定のテキストを設けず、本シラバスに記載の参考書と講義中に紹介する追加の参考書をもとに、作成した電子資料を掲載する。受講者は各自ダウンロード・印刷をし、持参する。
参考書	浜田純一、田島泰彦、桂敬一編(2009)『新訂新聞学』(日本評論社) ビル コヴァッチ、トム ローゼンステイール著、加藤岳文、斎藤邦泰訳(2011)『ジャーナリズムの原則』(日本経済評論社)

科目名	JRN203: マスメディア論 B				担当教員	アルン・デソーザ		
開講期	春/秋	開講時限	月 5 限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					2-①	
キーワード	ジャーナリズム・メディアの発展、現代社会とメディア、メディアと諸課題							
授業の概要	導入として欧米から始まるマス・メディアの基礎知識について説明した上で、マス・メディアが持つ現代社会における諸課題との関係性と影響を概説していく。そして、メディアが社会に対して果たす、また果たすべき責任と役割について考察する。							
達成目標(授業の目的)	メディアの発展と社会との関係性を理解し、現代におけるマス・メディアの社会責任について、意識し批判的に考えることができるようになる。							
到達目標(学修成果)	本科目を通じて、メディアの社会的な役割を理解することで、マス・メディアが私たちに提供する情報やニュースに関する正確な理解の仕方、批判的思考を身に付ける。							
評価方法	▶出席・Reaction Paper (30%)、▶Reflection Paper (20%) ▶授業参加 (25%)、▶期末レポート (25%)							
評価基準	▶Reaction Paper: 指定テーマについて、講義内容を踏まえて自分の意見を述べられているか。 ▶Reflection Paper: ワークショップの内容に関してまとめるとともに、自分の考えを深められているか。 ▶授業参加: Discussion やワークショップ等において、メディアに関する指定テーマについて積極的に議論しているか。また、それらを発展させながら、学術的に発表できているか。 ▶期末レポート: ジャーナリズム・メディアを題材にしたテーマは、論理的かつ独創的に述べられているか。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	Introduction	講義、 Reaction Paper	第1回授業内容の復習 Reaction Paperへの準備
2	『表現・言論の自由』	講義、Discussion	第2回授業内容の復習
3	メディアの発展	講義、Discussion、 Reaction Paper	第1回～3回授業内容の復習 Reaction Paperへの準備
4	世界・日本におけるメディア	講義、Discussion	第4回授業内容の復習 ワークショップ①への準備
5	アジアにおけるメディア: 東南アジア	講義、Discussion、 Reaction Paper	第5回授業内容の復習 現代メディアへの準備
6	現代社会とメディア	講義、Discussion、 Reaction Paper	第6回授業内容の復習 Reflection Paperの準備
7	ワークショップ①: 現代社会とメディア	Discussion Reflection Paper	個別テーマへの準備
8	個別テーマ①: メディアと政治・経済	講義、Discussion チーム発表	第8回授業内容の復習 期末レポートへの準備
9	個別テーマ②: メディアと宗教・平和	講義 Reaction Paper	第9回授業内容の復習 期末レポートへの準備

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
10	個別テーマ③: メディアと倫理・責任	講義、チーム発表 Discussion	第10回授業内容の復習
11	個別テーマ④: メディアと紛争・戦争	講義、チーム発表 Reaction Paper	第11回授業内容の復習
12	個別テーマ⑤: メディアと災害・復興	講義、チーム発表 Reaction Paper	第12回授業内容の復習 ワークショップ②への準備
13	個別テーマ⑥: メディアと教育・養成	講義、Discussion、 Reaction Paper	第13回授業内容の復習 Reflection Paperの準備
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	ワークショップ②: まとめ、総括、期末レポートの提出	講義、Discussion	ふり返しアンケート調査 全体のふり返しとまとめ

テキスト	特定のテキストを設けず、本シラバスに記載の参考書と講義中に紹介する追加の参考書をもとに、作成した電子資料を掲載する。受講者は各自ダウンロード・印刷をし、持参する。
参考書	浜田純一、田島泰彦、桂敬一編(2009)『新訂新聞学』(日本評論社) 有山輝雄、津金澤、聰廣編(1995)『現代メディアを学ぶ人のために』(世界思想社) 佐藤卓己(2006)『メディア社会—現代を読み解く視点』(岩波新書)

科目名	COM101: 基礎コンピューター演習				担当教員	森本 貴之		
開講期	春	開講時限	火2限 火3限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					2-②	
キーワード	コンピュータ, 情報リテラシー, 情報処理, Word, Excel, PowerPoint							
授業の概要	コンピュータを利用して、情報を収集・処理し、文書にまとめ、プレゼンテーションを行うための基礎的な技法について実習を通じて学ぶ。また、ネット上におけるモラルやセキュリティをはじめとする、知っておくべき情報リテラシーについて学ぶ。							
達成目標(授業の目的)	この授業は、大学生そして社会人として要求される情報リテラシーおよびコンピュータを利用した情報処理の基本を身につけることを目的とする。							
到達目標(学修成果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ネット上におけるセキュリティの意識付けやマナーを身につけ、実践できるようになる。</li> <li>情報分野における基本的かつ汎用的なリテラシーを習得する。</li> <li>文書作成、データ処理、プレゼンテーションのためのソフトウェアの基本操作を習得し、実践できるようになる。</li> </ul>							
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業ごとの演習課題(合計7回)とプレゼンテーションの相互評価: 55%</li> <li>単元末の総合課題: 45%(内訳: Wordを使用したレポート作成 15%、Excelを使用したデータ処理 15%、PowerPointを使用したプレゼンテーションの実演 15%)</li> </ul>							
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業ごとの演習課題: その日の授業内容がどれだけ理解できているか。</li> <li>レポート作成: 必要な情報を収集し、適切な書式や表現でまとめられるかどうか。</li> <li>データ処理: 様々なデータに対して意図した処理が実現できるかどうか。</li> <li>プレゼンテーションの実演と相互評価: 集めた情報を基に発表ための資料を作成し、他者にどれだけ伝えることができるかどうか。</li> </ul>							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	PC(Windows)の基本操作	解説、PC実習	実習で使用するログインID、パスワードの準備
2	Wordによる文書作成(1) Wordの基本操作、基本的な文書の作成	解説、PC実習	第2回授業の演習課題
3	Wordによる文書作成(2) 文書の編集、書式設定等	解説、PC実習	第3回授業の演習課題
4	Wordによる文書作成(3) 表の作成・編集、図の挿入等、総合演習	解説、PC実習	単元末の総合課題
5	Excelによる表計算(1) Excelの基本操作、表の作成・編集	解説、PC実習	第5回授業の演習課題
6	Excelによる表計算(2) 関数の利用等	解説、PC実習	第6回授業の演習課題
7	Excelによる表計算(3) グラフの作成	解説、PC実習	第7回授業の演習課題
8	Excelによる表計算(4) データ処理と統計処理	解説、PC実習	第8回授業の演習課題
9	Excelによる表計算(5) 条件付き書式等、総合演習	解説、PC実習	単元末の総合課題

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
10	PowerPointによるプレゼンテーション資料の作成(1) 基本操作	解説、PC実習	第10回授業の演習課題
11	PowerPointによるプレゼンテーション資料の作成(2) アニメーション設定等	解説、PC実習	単元末の総合課題(資料作成、発表練習)
12	PowerPointによるプレゼンテーションの実演(1)	発表、相互評価	プレゼンテーション実演のための練習
13	PowerPointによるプレゼンテーションの実演(2)	発表、相互評価	プレゼンテーション実演のための練習
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	PowerPointによるプレゼンテーションの実演(3)	発表、相互評価	プレゼンテーション実演のための練習
テキスト	なし。担当教員が作成した資料(電子ファイル)を Moodle で配付する。		



科目名	COM101: 基礎コンピューター演習				担当教員	津垣 正男		
開講期	秋	開講時限	火3限 金3限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					2-②	
キーワード	情報処理, 情報リテラシー, Office, Word, Excel, PowerPoint, Html							
授業の概要	大学生として必要最低限のコンピュータスキルを身に付けるための演習であり、PCルームで実際にパソコンを動かしながらPCの基本的な操作と情報リテラシーを学ぶ。具体的にはパソコンの基本(主にタイピング)、Word, Excel, PowerPointの基本的な操作、Htmlの学習を通じてインターネットの仕組みを学ぶ。							
達成目標(授業の目的)	① タッチタイピングを身につける。 ② Word, Excel, PowerPointの基本的な操作を身につける。 ③ Webページ作成の基礎を身につける。							
到達目標(学修成果)	① 短時間に正確な入力作業を行うことができる。 ② Word, Excel, PowerPointの基本的な機能を用いた資料(レポート, 資料の整理, 発表資料)の作成を行うことができる。 ③ シンプルなWebページを作成することができる。							
評価方法	① タイピング課題(10%) : P 検の無料タイピング練習のインターネット版(ソーシャル投稿非対応)の英語入力を用いた測定を行う。評価における点数は設けず、ある基準を超えることを必須とする。測定は何度も行う。 webサイト : <a href="http://www.pken.com/tool/typing.html">http://www.pken.com/tool/typing.html</a> ② 演習課題(50%) : 毎回の授業においてその回の理解度をはかるための演習課題を課す。また、PowerPointを用いたプレゼンテーションも行ってもらう。 ③ レポート課題(40%) : 授業をWord, Excel, PowerPoint, Htmlの単元に分け、各単元の最後にレポートを課す。							
評価基準	① タイピング課題 : 3分間で正打率95%以上、文字数390以上を基準とする。 ② 演習課題 : 指示通りに提出ファイルが作成されているかどうかをみる。PowerPointの実演においては、発表準備が十分にできているかどうかをみる。 ③ レポート課題 : 指示通りに作成されているかどうかをみる。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	PC(Windows)の基本操作	PC実習, 解説	アカウントの準備
2	キーボード操作とタイピング : タイピング演習(1)	PC実習, 解説	前回内容の復習
3	テキストエディタによる文章作成 : 基本的な操作方法を学ぶ	PC実習, 解説	前回内容の復習
4	Wordによる文章作成 : 基本的な操作方法を学ぶ	PC実習, 解説	前回内容の復習
5	Wordによる文章作成 : 総合演習, タイピング演習(2)	PC実習, 解説	前回内容の復習
6	Excelによる表計算 : 関数の扱い, 相対参照, 絶対参照など	PC実習, 解説	Wordのレポート提出

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
7	Excelによる表計算： グラフの作成・複数のシートの操作など	PC実習，解説	前回内容の復習
8	Excelによる表計算： データベースの操作など	PC実習，解説	前回内容の復習
9	Excelによる表計算： ピボットテーブルの操作など，タイピング 演習(3)	PC実習，解説	前回内容の復習
10	PowerPointによる資料の作成： 基本的な操作など	PC実習，解説	Excelのレポート提出
11	PowerPointによる資料の作成： 総合演習，タイピング演習(4)	PC実習，解説	前回内容の復習
12	PowerPointによる資料の作成： プレゼンテーションの実演	PC実習，解説	発表の準備 PowerPointのレポート提出
13	HtmlによるWebページの作成： Html文章の基本構造を学ぶ	PC実習，解説	前回内容の復習
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	HtmlによるWebページの作成： 総合演習，タイピング演習(5)	PC実習，解説	前回内容の復習 Htmlのレポート提出
テキスト	富士通エフ・オー・エム『学生に役立つ Word & Excel & PowerPoint』(FOM出版)		

科目名	MTH201: 数学 A				担当教員	津垣 正男		
開講期	秋	開講時限	火 2 限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.19 を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP 及び 学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要					学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					2-①	
キーワード	数学, 適性検査, SPI, 非言語能力, 数的処理							
授業の概要	① 適性検査・SPIにおいて出題される非言語能力(数学)の演習と課題の解説を行う。 ② 英語で書かれた数学の問題(中学の内容)の演習と課題の解説を行う。							
達成目標 (授業の目的)	① 適性検査・SPIにおいて必要とされる数学の知識が何であるかを知る。 ② 英語の数学用語に慣れる。							
到達目標 (学修成果)	① 適性検査・SPIの数学の問題を短時間で解くことができるようになる。 ② 中学の範囲までの英語で書かれた数学の問題を解くことができるようになる。							
評価方法	① 毎回の授業での課題: 60% ② 授業内適性検査・SPI対策試験(2回): 40%							
評価基準	① 毎回の課題の評価は「考え方が理解できているかどうか」を重視するので、途中計算と説明の記述を求める。 ② 実際の適性検査・SPIと同様の問題を用いた試験を2回行う。ただし、考え方の確認も行うので、途中計算と説明の記述の確認も行う。詳細は初回授業で説明する。							
準備学修 の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	推論	講義と演習	ノート準備
2	図形の読み取り, 集合	講義と演習	ここまでの内容の復習
3	英語での問題演習: 基本用語の紹介, 多項式, ルートの計算	講義と演習	配布プリントの予習
4	順列, 組み合わせ	講義と演習	ここまでの内容の復習
5	確率	講義と演習	ここまでの内容の復習
6	英語での問題演習: 2次方程式, 関数	講義と演習	配布プリントの予習
7	第1回適性検査・SPI対策授業内試験 試験の解説	試験, 試験の解説	ここまでの内容の復習
8	料金の割引, 損益算, 分割払い, 仕事算	講義と演習	ここまでの内容の復習
9	英語での問題演習: 図形に関する問題演習① (相似, 合同等)	講義と演習	配布プリントの予習
10	速さ, 距離, 時間	講義と演習	ここまでの内容の復習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
11	割合, 比, 代金の清算	講義と演習	ここまでの内容の復習
12	英語での問題演習: 図形に関する問題演習② (円, ピタゴラスの定理 等)	講義と演習	配布プリントの予習
13	整数の推測, グラフの領域, 物の流れと比率, 装置と回路	講義と演習	ここまでの内容の復習
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	第2回適性検査・SPI 対策授業内試験 試験の解説	試験, 試験の解説	ここまでの内容の復習

テキスト	適宜プリントを配布する.
参考書	SPI ノートの会 (著) 津田秀樹 (著) 『これが本当の SPI3 だ!』 (洋泉社)

科目名	MTH202: 数学 B				担当教員	津垣 正男		
開講期	秋	開講時限	金 2 限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.19 を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP 及び 学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要					学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					2-①	
キーワード	数学, 統計学, 微積分学							
授業の概要	<p>① 統計学とは、大きなデータから一部を抜き取り、その抜き取ったデータの性質を調べることで元の大きなデータの性質を推測する方法を体系化したものである。本授業では大学における統計学の入門コースで学ぶ内容(授業計画参照)を扱う。</p> <p>② 高校の数学 II における微積分学の基礎的な内容を扱う。</p>							
達成目標 (授業の目的)	<p>① 統計学とは何か、統計学を用いると何ができるようになるのかを知る。</p> <p>② 微積分学の基礎計算力を養成することを目標とする。</p>							
到達目標 (学修成果)	<p>① 収集したデータの平均や分散、標準偏差などを計算することでデータの性質を把握することができる。(記述統計)</p> <p>② 大きなデータから一部を抜き取り、その抜き取ったデータに対し推定・検定の計算をすることで元の大きなデータの性質を把握することができる。(推測統計)</p> <p>③ 基本的な関数(多項式関数, 指数関数, 対数関数, 三角関数)に関する微積分の計算ができる。</p>							
評価方法	<p>① 各回のテーマに関する提出課題: 50%</p> <p>② 授業内試験(2回): 50%</p>							
評価基準	<p>① 授業の内容を的確に理解し、記述統計に関するデータの処理を正しく行えるかどうか</p> <p>② 授業の内容を的確に理解し、推測統計に関するデータの処理を正しく行えるかどうか</p> <p>③ 授業の内容を的確に理解し、微積分に関する計算を正しく行えるかどうか</p>							
準備学修 の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均 190 分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	統計学: 平均と分散 微積分学: 関数	講義, 演習	ノートの準備
2	統計学: 信頼区間(母分散が既知の場合)	講義, 演習	ここまでの内容の復習
3	微積分学: 指数関数, 対数関数, 三角関数	講義, 演習	ここまでの内容の復習
4	統計学: 信頼区間(母分散が未知の場合)	講義, 演習	ここまでの内容の復習
5	微積分学: 多項式関数の微分の計算	講義, 演習	ここまでの内容の復習
6	ここまでの内容の復習	講義, 演習	ここまでの内容の復習
7	第 1 回授業内試験 試験の解説	講義, 演習, 試験の解説	ここまでの内容の復習
8	統計学: カイ 2 乗検定	講義, 演習	ここまでの内容の復習
9	微積分学: 基本的な関数の微分の計算	講義, 演習	ここまでの内容の復習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
10	統計学： 母平均の検定	講義，演習	ここまでの内容の復習
11	統計学： 対応のある平均の差の検定	講義，演習	ここまでの内容の復習
12	微積分学： 基本的な関数の積分の計算	講義，演習	ここまでの内容の復習
13	ここまでの演習	講義，演習	ここまでの内容の復習
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	第2回授業内試験， 試験の解説	講義，演習，試験の解説	ここまでの内容の復習
テキスト	向後千春／富永敦子 著『統計学がわかる』（技術評論社）		

科目名	PSY201: 心理学 A				担当教員	奥村 桃子		
開講期	春/秋	開講時限	木2限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					2-①	
キーワード	心理学の歴史、心理学研究法、認知心理学、パーソナリティ心理学、社会心理学、臨床心理学							
授業の概要	心理学の主要な領域を概観しながら、人間の心について心理学的視点から理解を深めます。基本的には講義形式ですが、テーマによりDVDなどの視聴覚教材を使用したり、実際に体験することで理解を深めます。また、授業内で関連のある話題や参考図書も紹介します。							
達成目標(授業の目的)	心理学という学問の基本的な考え方や研究方法、学問成立の背景などを理解するとともに、各々の基本的な知識を習得し、心理学的視点に基づいた考え方を展開できるようになることを目標としています。							
到達目標(学修成果)	心理学を通じて、人のこころや行動の意味について理解を深める。さらに、基礎的な心理学領域の知見から、日常生活における人間理解や社会生活に応用して思考できるようになることを目標とします。							
評価方法	毎回の授業態度とリアクションペーパー50%、授業内試験2回40%、授業内レポート1回10%							
評価基準	授業態度とリアクションペーパー：質問・疑問を通じて積極的に授業に参加しているかどうか。授業で学習したポイントを理解し授業内容を踏まえた自らの考えを記述できているかどうか。 授業内試験：学習内容を理解しているかどうか。 レポート：授業および視聴覚教材の内容を踏まえ、自分の考えや意見をきちんと記述できているかどうか。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	オリエンテーション：授業の進め方 心理学概論	講義、質疑応答、リアクションペーパー	初回授業の復習と研究法についての事前学習
2	心理学の歴史	講義、質疑応答、リアクションペーパー	前回の授業復習と次回の授業準備
3	心理学の研究方法	講義、質疑応答、リアクションペーパー	前回の授業復習と認知についての事前学習
4	認知心理学 認知とは？	講義、質疑応答、リアクションペーパー	前回の授業復習とパーソナリティについての事前学習
5	パーソナリティ心理学 パーソナリティとは？	講義、質疑応答、リアクションペーパー	前回の授業復習と社会心理学についての事前学習
6	社会心理学 社会心理学とは？	講義、質疑応答、リアクションペーパー	第1～6回の授業の復習(小テスト準備)
7	第1回授業内試験実施 解答と解説	授業内試験、リアクションペーパー	試験の見直しと臨床心理学についての事前学習
8	臨床心理学(1) 臨床心理学とは？	講義、質疑応答、リアクションペーパー	試験見直しと心理アセスメントについての事前学習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
9	臨床心理学(2) 心理アセスメント/心の病気Ⅰ	講義、質疑応答、リアクションペーパー	前回の授業復習と心の病気についての事前学習
10	臨床心理学(3) 心の病気Ⅱ	講義、質疑応答、リアクションペーパー	前回の授業復習と発達障害についての事前学習
11	臨床心理学(4) 発達障害とは?Ⅰ	講義、質疑応答、リアクションペーパー	第8~12回の授業の復習(小テストの準備)
12	臨床心理学(5) 発達障害とは?Ⅱ	質疑応答、視聴覚教材、レポート作成	第1~13回の講義のまとめと振り返り
13	第2回授業内試験実施 解答と解説	授業内試験、リアクションペーパー	試験の見直し、第1~13回の授業の復習
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	全体のまとめ、質疑、補足	講義、質疑応答、リアクションペーパー	第1~13回の講義のまとめと振り返り

テキスト	指定しない。授業に関連するプリントを配布する。
参考書	岩壁茂ほか著『臨床心理学入門』(有斐閣アルマ) 道又薨ほか著『認知心理学』(有斐閣アルマ) サトウタツヤほか著『心理学入門』(有斐閣アルマ)



科目名	PSY202: 心理学 B				担当教員	奥村 桃子		
開講期	春/秋	開講時限	木3限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					2-①	
キーワード	生涯発達、認知発達、対人関係、乳幼児期							
授業の概要	発達心理学研究に基づいて、人の発達について多角的に理解することを目指し、胎児から老人にわたる成長発達とその過程について学びます。各発達段階の特徴や発達のメカニズムについて解説します。基本的には講義形式ですが、本授業での学びを深め日常生活に役立てることができるように、視聴覚教材も使用します。							
達成目標(授業の目的)	発達心理学の基本的な用語や知識を習得し、人の発達のメカニズムについて理解することを目的としています。また、生命誕生から人間がどのように発達し、年齢を重ねていくのかについて基本的な発達心理学的思考を身につけ、発達心理学の臨床的な問題を身近な問題として考えるための基礎知識を学びます。							
到達目標(学修成果)	人間を発達心理学の視点から理解すること、現在の心の在り方を一生涯という長い時間軸の中で理解し、自分自身の現在を振り返り展望して考えることができるようになることが目標です。							
評価方法	毎回の授業態度とリアクションペーパー50%、授業内試験2回30%、授業内レポート2回20%							
評価基準	積極的な質問や発言等の授業態度、および授業内容を踏まえた自らの考えをリアクションペーパーに記述できているかを評価対象とします。また、授業内試験では学習したポイントや心理学用語を正確に理解し、適切に記述できるかどうかを評価します。授業内レポートでは授業および視聴覚教材の内容を踏まえ、自分の考えや意見をきちんと記述できているかどうかを評価します。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	オリエンテーション: 授業の進め方等 生涯発達心理学とは?	講義、リアクションペーパー	初回授業の復習と遺伝要素/環境要素どちらが強く影響しているか考える
2	発達の可塑性 遺伝と環境	講義、質疑応答、リアクションペーパー	前回の授業復習とピアジェ/エリクソンについて事前学習
3	発達モデル ピアジェとエリクソン	講義、質疑応答、リアクションペーパー	前回の授業復習と胎児/新生児についての事前学習
4	認知発達の基盤1 胎児と新生児	講義、質疑応答、リアクションペーパー	前回の授業復習と胎児/新生児について具体的にイメージしてみる
5	認知発達の基盤2 胎児と新生児の実態	質疑応答、視聴覚教材、レポート作成	前回の授業復習と乳児についての事前学習
6	認知発達の基盤3 乳児期	講義、質疑応答、リアクションペーパー	前回の授業復習と幼児についての事前学習
7	認知発達の基盤4 幼児期	講義、質疑応答、リアクションペーパー	前回の授業復習と幼児について具体的にイメージしてみる
8	認知発達の基盤5 幼児期の実態	質疑応答、視聴覚教材、レポート作成	第1~7回の授業の復習(小テスト準備)

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
9	第1回授業内試験 解答と解説	授業内試験、リアクシ ョンペーパー	試験の見直しと乳幼児の遊び についての事前学習
10	他者との関係性のはじまり 遊び	講義、質疑応答、リア クションペーパー	前回の授業復習と学校におけ る認知能力についての事前学習
11	認知能力の生涯発達1 学校での学習	講義、質疑応答、リア クションペーパー	前回の授業復習と成人・高齢 期の認知能力について事前学習
12	認知能力の生涯発達2 成人後・高齢期の認知能力	講義、質疑応答、リア クションペーパー	第10～12回の授業の復習 (小テストの準備)
13	第2回授業内試験 解答と解説	授業内試験、リアクシ ョンペーパー	試験の見直し、第1回～13 回の授業の復習
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	全体のまとめ、質疑、補足	講義、質疑応答、リア クションペーパー	第1～13回の講義のまとめと 振り返り

テキスト	指定しない。授業に関連するプリントを配布する。
参考書	鈴木忠・飯牟礼悦子・滝口のぞみ著『生涯発達心理学』(有斐閣アルマ)

科目名	PED100: 体育理論 (ウエルネスと身体)				担当教員	
開講期	春/秋	開講時限		研究室	オフィスアワー	P.19を参照のこと
分類	選択	単 位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先
DP及び学修成果	DP分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要				学修成果獲得の観点
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。				2-③
キーワード	<p style="text-align: center;">シラバスは本学公式 web サイトのシラバスページにて公開します。 詳細については、Loyola 「上智大学短期大学部掲示板」にてお知らせします。</p>					
授業の概要						
達成目標 (授業の目的)						
到達目標 (学修成果)						
評価方法						
評価基準						
準備学修の時間						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
10			
11			
12			
13			
14			

テキスト	
参考書	
履修条件、 前提科目	
その他 特記事項	

科目名	PED110: 体育(球技1)				担当教員	
開講期	春/秋	開講時限		研究室	オフィスアワー	P.19を参照のこと
分類	選択	単位	1	標準受講年次	1・2年	連絡先
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要				学修成果獲得の観点
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。				2-③
キーワード	<p style="text-align: center;">シラバスは本学公式 web サイトの シラバスページにて公開します。 詳細については、 Loyola「上智大学短期大学部掲示板」にて お知らせします。</p>					
授業の概要						
達成目標 (授業の目的)						
到達目標 (学修成果)						
評価方法						
評価基準						
準備学修 の時間						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
10			
11			
12			
13			
14			

テキスト	
参考書	
履修条件、 前提科目	
その他 特記事項	

科目名	PED111: 体育(球技2)				担当教員		
開講期	春/秋	開講時限		研究室	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	選択	単位	1	標準受講年次	1・2年	連絡先	
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要				学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。				2-③	
キーワード	<p style="text-align: center;">シラバスは本学公式 web サイトのシラバスページにて公開します。 詳細については、Loyola「上智大学短期大学部掲示板」にてお知らせします。</p>						
授業の概要							
達成目標(授業の目的)							
到達目標(学修成果)							
評価方法							
評価基準							
準備学修の時間							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
10			
11			
12			
13			
14			

テキスト	
参考書	
履修条件、 前提科目	
その他 特記事項	